

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター一年報

30

平成 26(2014) 年度事業報告

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター

平成 28(2016) 年 3 月

序 文

鹿児島大学キャンパスは、後期旧石器時代から現代まで長期にわたる多くの貴重な埋蔵文化財が包蔵されている遺跡です。埋蔵文化財調査センターでは、その前身である埋蔵文化財調査室が発足した昭和 60(1985) 年 6 月 1 日より、学内遺跡の調査・研究を行ってきました。その成果は、『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報』『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書』として逐次報告してまいりました。

今年度は、鹿児島大学埋蔵文化財調査センターの平成 26 年度事業報告として『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報』vol. 30 を刊行することになりました。平成 26 年度は、発掘調査 2 件、立会調査 13 件のほか、遺物整理作業、公開講座などを実施しており、本書にはこれらの事業概要が掲載されています。

現在も、キャンパス内では多くの施設整備事業が実施されておりますが、埋蔵文化財調査センターでは、これらの整備事業が埋蔵文化財保護法を遵守しつつ、すすめられるよう努力するとともに、調査で得られた成果を速やかに社会に還元できるよう、全力を尽くす所存です。

埋蔵文化財調査センターの活動につきましては、今後とも、皆様方のご理解と支援をお願い申しあげます。

平成 28 年 3 月

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長
鹿児島大学埋蔵文化財調査委員長

中村 直子

例 言

1. 本書は、平成 26 年度 (2014 年度) に鹿児島大学埋蔵文化財調査センターが実施した事業の概要報告である。
2. 本書に掲載している発掘・試掘調査は、鹿児島大学埋蔵文化財調査センターが担当した。立会調査は、鹿児島市教育委員会が担当し、鹿児島大学埋蔵文化財調査センターが補助した。
3. 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査センターが行った。担当者は以下の通りである。
製図 寒川朋枝・中村直子・新里貴之
作表・執筆 寒川
編集 寒川・中村直子・新里貴之
4. 本書で報告している遺物の保管は、埋蔵文化財調査センターの管理のもと、学内の出土部局収蔵施設にて保管している。また、図版・写真などの資料は埋蔵文化財調査センターに保管している。

凡 例

1. 昭和 60 年 6 月 1 日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査室に便であるように、鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地（旧宇宿団地）とに設定した。その設置基準は以下のとおりである。
 - (1) 郡元団地では、日本測地系による国土座標第 2 座標系 ($X = -158,200$, $Y = -42,400$) を基点として一辺 50 m の方形地区割りを行った (Fig. 2 参照)。
 - (2) 桜ヶ丘団地では、日本測地系による国土座標第 2 座標系 ($X = -161,600$, $Y = -44,400$) を基点として一辺 50 m の方形地区割りを行った (Fig. 3 参照)。
2. 本報告書におけるレベル高は、すべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。
3. 本書で使用した遺構の表示記号は、以下の通りである。
SK：土坑・竪穴建物, SD：溝, P：ピット, SR：自然流路
4. 土層・遺物の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさせんたーねんぼう 30							
書名	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報 30							
編著者	寒川朋枝・中村直子・新里貴之							
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒 890-8580 鹿児島市郡元一丁目 21 番 24 号 TEL 099-285-7270 Fax 099-285-7271							
発行年月日	2016 年 3 月							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査 起因
		市町村	遺跡番号					
鹿児島大学構内 遺跡郡元団地	鹿児島市 郡元 1 丁目 20-15	4620	1-23-0	31. 572348°	130. 54575°	2014 年 4 月 22 日 ～ 2015 年 3 月 23 日	925㎡	施設 整備 事業
鹿児島大学構内 遺跡桜ヶ丘団地	鹿児島市 桜ヶ丘 8 丁 目 35- 1	4620	1-23-0	31. 548192°	130. 52642°	2014 年 9 月 1 日 ～ 2015 年 3 月 13 日	1042㎡	施設 整備 事業
所収遺跡	主な時代		主な遺構		主な遺物			特記 事項
鹿児島大学構内 遺跡郡元団地	近世～近代 中世～古墳時代		水田跡 水田・畑跡・溝 住居跡		陶磁器 土師器 成川式土器片 弥生土器片 縄文土器片			発掘 調査 立会 調査
鹿児島大学構内 遺跡桜ヶ丘団地	近世～縄文時代				陶磁器 土器小片			立会 調査

目 次

I 平成 26 (2014) 年度の事業概要	1
II 発掘調査の概要	5
2014-1 郡元団地 O・P-6 区 (教育学部学習プラザ新営その他工事に伴う発掘調査)	
2014-2 郡元団地 F- 6 区 (保健管理センター増築その他工事に伴う発掘調査)	
III 立会調査	19
IV 遺物整理	33
V 刊行物	33
VI 遺物保管	34
VII 普及・啓発活動	34
鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則	36
鹿児島大学埋蔵文化財調査センター規則	37

I 平成 26 (2014) 年度の事業概要

平成 26 (2014) 年度は、発掘調査 2 件、立会調査 13 件を実施した (Tab.1)。遺物整理作業は 6 件、刊行物として、発掘調査報告書第 11 集、年報 29 を刊行した。そのほか、概要報告書 4 件、遺物保管作業 5 件、また普及啓発活動として公開講座を開催したほか、鹿児島県教育委員会・鹿児島市教育委員会の協力のもと埋蔵文化財講習会を実施した。発掘調査、立会調査の詳細、その他の事業に関しては、下に記す通りである。

Tab.1 平成 26 (2014) 年度事業一覧

事業	コード	調査区	工事名称	担当者	期間	
発掘	2014-1	郡元 O・P-6	教育学部学習プラザ新営その他工事に伴う発掘調査	新里	2014 年 6 月 11 日～2014 年 8 月 22 日	
発掘	2014-2	郡元 F-6	保健管理センター増築その他工事に伴う発掘調査	寒川	2014 年 5 月 22 日～2014 年 7 月 2 日	
事業	コード	調査区	工事名称	担当者		工事期間
				市教委	調査セ	
	2014-A	桜ヶ丘 H-5・6	医歯学総合研究科仮設研究実験棟新営工事	井口	寒川	2014 年 9 月 18 日
	2014-B	郡元 O・P-7・6	教育学部学習プラザ新営その他機械設備工事における土木工事	井口・有川	寒川・新里	2014 年 6 月 5 日, 8 月 29 日 9 月 17 日, 12 月 5 日
	2014-C	郡元 J-4・5	共通教育棟改修関連電気工事	真鍋	中村	2014 年 6 月 6 日
	2014-D	郡元 C- 4	産業動物実習棟調査区脇桜樹木移植工事		中村	2014 年 6 月 13 日
	2014-E	郡元 H・I-8・9	電気電子工学科棟改修その他電気・機械設備工事	井口	新里・中村・寒川	2014 年 4 月 22・30 日, 6 月 25 日
	2014-F	郡元 F-6	保健管理センター増築その他機械設備工事における土木工事	井口	寒川	2014 年 8 月 7 日, 9 月 26 日, 11 月 7 日
立会	2014-G	桜ヶ丘 H・I-5・6	医歯学総合研究科仮設研究実験棟新営電気設備工事	井口	寒川	2014 年 9 月 1 日 2015 年 3 月 13 日
	2014-H	郡元 B-D -3~5	実習棟 (産業動物飼育施設) 新営機械設備電気設備工事	真鍋・井口	寒川・新里	2014 年 11 月 4 日
	2014-I	郡元 S-5・6	附属小学校体育館等天井改修その他工事	井口	寒川	2015 年 3 月 23 日
	2014-J	郡元 B-7・8	農学部附属演習林実験実習地電気水道取付工事	真鍋	寒川	2014 年 9 月 11 日
	2014-L	桜ヶ丘 I-6	医学部基礎講義実習棟改修機械設備工事	井口	寒川	2014 年 11 月 6 日
	2014-M		鹿児島大学鴨池宿舍改修電気設備工事		新里	2015 年 1 月 27 日
	2014-N	郡元 F-10	農学部実験実習地 (附属農場圃場) 工事	井口	寒川	2015 年 2 月 26 日
事業	コード	調査区	内容	事業	担当者	
	1997-1	郡元	工学部校舎建設に伴う発掘調査	分類・実測・トレース・写真撮影	中村・寒川・濱田・東・篠原	
	2013-4	郡元	保健管理センター前試掘	注記・分類・実測	新里・濱田・篠原・東	
遺物整理	2013-A～J	郡元・桜ヶ丘	平成 25 年度立会調査	注記・実測・トレース・写真撮影	寒川・濱田・東・篠原・福留	
	1976-1	郡元	釘田第 8 地点土器・石器	注記・分類	新里・寒川・濱田・東・篠原	
	1976-1	郡元	釘田第 8 地点木製品	分類・実測・トレース・写真撮影	新里・寒川・濱田・東・篠原	
	2001-2	郡元	理工系総合研究棟 II 建設に伴う発掘調査	注記・分類	中村・濱田・東・篠原・大西	
事業	内容	担当者	発行			
刊行物	報告書 鹿児島大学埋蔵文化財調査報告書 第 11 集	中村・新里・寒川	2015 年 3 月			
	年報 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 29	寒川・中村・新里	2015 年 3 月			
事業	内容	担当者	提出			
概要報告書	2013-2 郡元：電気・電子工学科棟改修に伴う発掘調査	新里	2014 年 4 月			
	2013-3 郡元：共通教育棟 1 号館改修工事に伴う発掘調査	寒川	2014 年 7 月			
	2014-1 郡元：教育学部学習プラザ新営その他工事に伴う発掘調査	新里	2014 年 12 月			
	2014-2 郡元：保健管理センター増築その他工事に伴う発掘調査	寒川	2014 年 8 月			
事業	内容	担当者	期間			
遺物保管	遺物保管場所確認作業 (16ヶ所)	中村・新里・寒川	2014 年 8 月 22・25・26 日			
	木製品保管場所引越・水替え (食堂裏プレハブ→理工系総合研究棟地下)	中村・新里・寒川	2014 年 11 月 27 日			
	教育学部 (2009-1・2011-1) へ遺物 13 箱, 桜ヶ丘 (2013-3) へ遺物 10 箱移動	中村・新里・寒川	2014 年 12 月 3 日			
	釘田遺跡第 1 地点 (75-1) ほか理工系総研棟→文系総研棟へ 118.5 箱移動	中村・新里・寒川	2015 年 2 月 10 日			
	産業動物飼育実習棟 (2013-1) 文系総研棟→共同獣医学部へ 28 箱移動	中村・新里・寒川	2015 年 2 月 17 日			
事業	内容	担当者	期間			
普及啓発活動	遺物実査 (志布志市教育委員会職員)	中村・新里・寒川	2014 年 4 月 11 日			
	公開講座 (『祭祀遺跡の考古学』)	中村・新里・寒川	2014 年 8 月 2 日			
	埋蔵文化財講習会 (鹿児島県教育委員会・鹿児島市教育委員会協力)	中村・新里・寒川	2014 年 12 月 16 日			
	埋蔵文化財調査センター HP リニューアル	中村・新里・寒川	2015 年 2 月			
	埋蔵文化財調査センターリーフレット作成	中村・新里・寒川	2015 年 2 月			



Fig. 1 鹿児島大学構内遺跡の位置 国土地理院鹿児島南部 1 : 25000 (平成 16 年発行) を改変



Fig. 3 桜ヶ丘団地構内図 (S=1/4000)

Ⅱ 発掘調査の概要

平成26(2014)年度に行われた2014-1, 2014-2の発掘調査概要について述べる。いずれも鹿児島県教育委員会に提出した概要報告をもとに一部加筆修正を行ったものである。

2014-1 郡元団地0・P-6区教育学部学習プラザ新営その他工事に伴う発掘調査

1. 調査にいたる経緯

鹿児島大学では、教育学部第2講義棟の一部を解体し、学習プラザの建設が予定された。鹿大構内遺跡の工事地点近隣では、南接する位置に水町遺跡(昭和59年鹿児島大学法文学部考古学研究室発掘:調査コード84-3)、北接する部分に福利厚生施設建設地(同大学埋蔵文化財調査センター(旧調査室:92-3))がある。

前者では弥生時代～近代の遺物が出土し、古代・近世以降の水田跡が検出されている。注目すべきものとして、古代の水田跡では牛足痕が検出され、攪乱層からではあるが蛇紋岩製の丁字頭勾玉の出土がある¹⁾。後者でも弥生時代～古墳時代の遺物が出土しており、遺構では弥生時代～古墳時代のものと思われる、一定範囲に無数の足跡状遺構が切り合う箇所がみられ、水田遺構の可能性があり、注目される²⁾。

これらのことから、学習プラザ新営地点もまた同様の遺構・遺物が出土することが予想されたため、建設の事前調査として発掘調査を行なうこととなった。

2. 調査体制

所在地 鹿児島市郡元1-20-15(教育学部キャンパス)

調査起因 学習プラザ新営

発掘主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター センター長 本田道輝 教授

発掘指導員 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター センター員 新里貴之 助教

現場代理人 国際文化財株式会社 現場代理人 浦壁 晃

発掘調査員 国際文化財株式会社 調査員 佐藤 洋→長林 大(途中交代)

発掘作業員 大迫陽子・木戸直輝・蔵本公一郎・小脇香代子・下田平博文・下田まき子・杉山高・長野眞由美・松下郁美・水迫久夫・中村俊一・本山涼子・前屋敷茂樹・安永政一

調査期間 2014年6月11日～8月22日

調査面積 約140m²

遺跡の現状 教育学部第2講義棟(解体)

3. 調査経過

6月11日より16日まで重機と人力による表土の掘削除去作業を行なった。その結果、包含層の残存度は極めて悪く、ほとんどが旧校舎第2講義棟建築時の基礎によって破壊されている状況であった。残存している地点では大きく5枚の遺物包含層を確認することができた。17日より2層土を掘削し、3層上面で溝跡1基(SD1)と数条の鋤痕を検出することができた。3c層上面では4条の溝跡4基(SD2～5)を検出した。4c層掘削中に、4c層上面に溝跡1基(SD6)と5層上面に自然流路(SR1)が検出された。4c層から5層上面では、遺物小破片が面的に散在し、郡元団地の土器溜まり層の名残を確認することができた。5層では、5a層掘削中に、自然流路SR1周辺に小ピットや足跡状遺構を確認したが、小ピットは斜位に入り込む樹根状であり、足跡状遺構はそれらしい形状をしていたが、確言できない。自然流路脇の植生によるものと見るべきかもしれない。

7月5日、現場の縄張りが北に2mほどずれていることが判明し、7月7日約2m幅で南に拡張すること

となった。表土は重機で掘削した。7月8日は台風8号接近のため、現場を養生した。台風直撃は免れたものの、調査区底面は水没した。7月11日より現場復旧作業を開始した。11～15日まで攪乱部掘削、16～17日で2層上面遺構と2層を掘削し、17日、3層上面鋤痕を検出、掘削を行なった。鋤痕の埋土は2層土と3層土の混じり土が基本であったが、2層土が強い部分なども確認される。ほとんどが北西―南東方向に延びている。3a・3b・3c層上面遺構および3層土の掘削は17～25日まで行なった。遺構はほとんどが溝や鋤痕であった。4層の調査は7月28日～8月1日で実施したが、ここで台風12号の来襲により、3日ほど現場が休止した。6層上面ではピット群と溝跡(SD10)が検出されている。5層土の掘削は6～21日まで行われた。

なお、表土掘削中、ほとんど破壊されていた調査区底面(標高4.7m前後)を、重機で2箇所、下層確認を行なった。下層は全て粗細砂の互層となっており、遺物包含層ではなかった。調査区底面より2.2m下位(標高2.5m)で水が湧き出したため、人力による下層確認調査は省略した。

調査区内の遺構は全て平面、断面の写真撮影、測量を行い、必要に応じて遺物の点上げ等をして、8月21日調査を終了し、翌日現場を撤収した。

4. 基本層位

学習プラザ地点の基本土層は1～5層の5枚で、3～5・7層は細分される。旧地形は東側が高く、西側が低くなっているため、西側の土層が若干厚い。2～4層の特徴が水田や畑層と考えられたため、主要な土層や遺構埋土について、調査時にウォーター・フローテーションを実施し、栽培植物等の検出を目指したが、有意な成果はなかった。各層や遺構埋土中の土壌サンプルを採取してあるので、正式報告書までにはプラントオパール分析などを実施し、その結果を提出したい。

1層：表土・攪乱層 ほとんど第2講義棟建設の基礎等による攪乱である。弥生時代～現代までの遺物が含まれる。

2層：水田層 近世以降の水田層と考えられるものであるが、残りが悪い。遺物を少量含む。2枚に細分される。

3層：水田層か畑層 3a～3c層に細分される。上面で2層の時期の溝跡1基(SD1)・鋤痕が検出された。3c層上面では、溝跡4基(SD2～5)が検出された。古墳時代～中世の遺物が含まれる。3b層中に青磁・白磁が包含されるので、3b層は明らかに中世であると考えられる。

4層：水田層か畑層 4a～4cに細分される。4b層が①・②に区分される箇所もある。4c層掘削中、4c層上面で溝跡1基(SD6)と自然流路(SR1・2)、4b層上面で自然流路(SR3)が検出された。この層には弥生時代～古代の遺物が含まれる。

5層：遺物包含層 5a～5d層に細分される。5d～6層上面でピット群および1基の溝跡(SD10)が検出されている。弥生時代～古墳時代の遺物のみが含まれる。

6～8層：無遺物層。

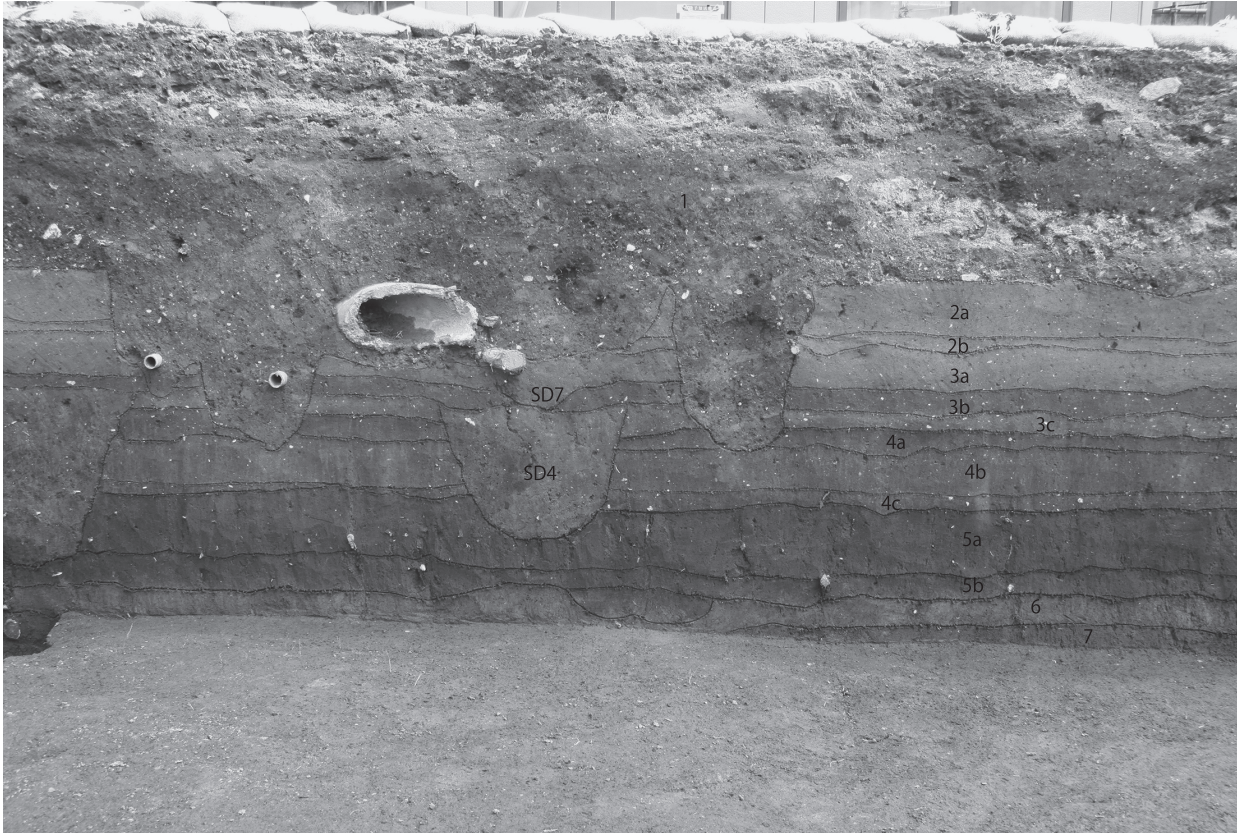
以上のように、遺物から各層の年代観を述べると、5層が弥生時代～古墳時代、4b～3c層までは古代である。3b層は中世の14・5世紀代以降であり、2層は18世紀後半以降と考えることができる。

5. 遺構

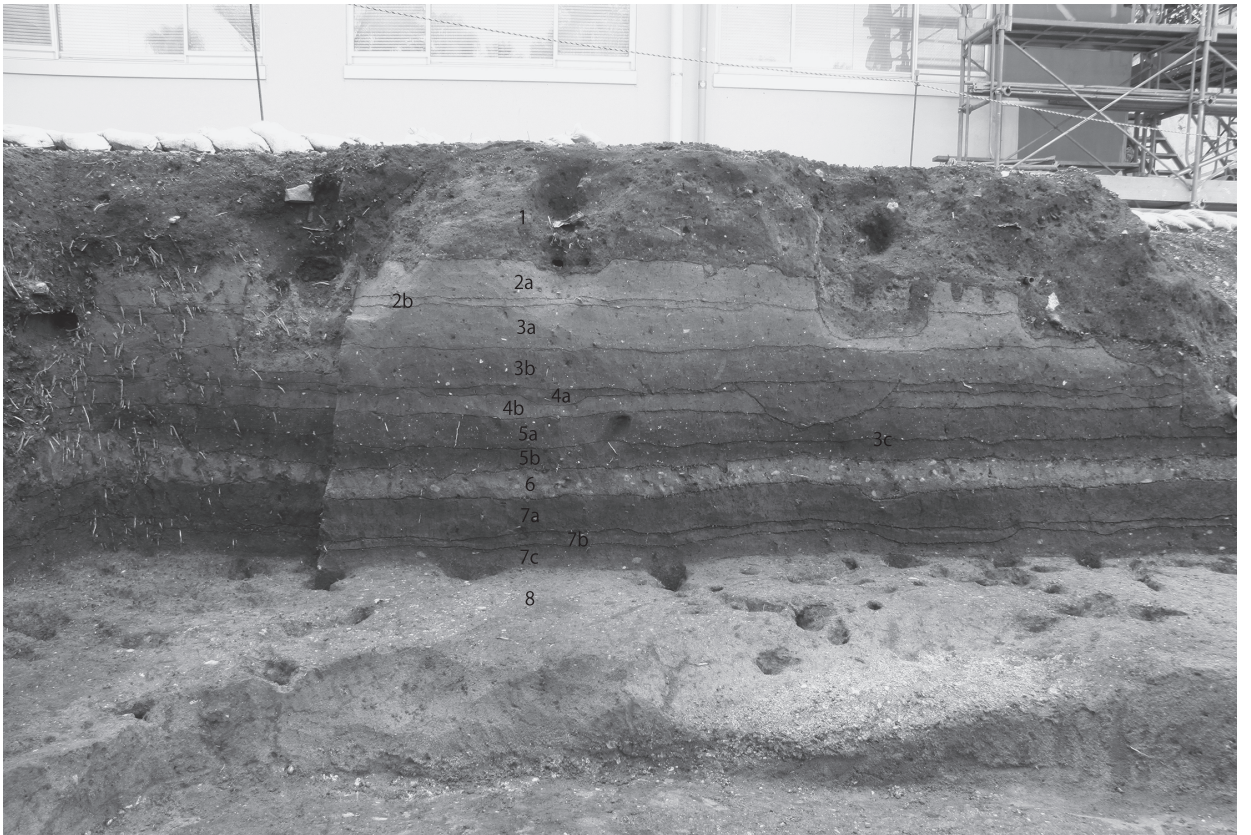
1) 鋤痕 3～5層上面で検出されたもので、ほとんどがその上位の土層を埋土としている。幅や長さは様々であるが、方向は北西―南東で揃っている。深さは1～5cm程度の浅いものである。ここでは図化していない。

2) 溝跡(SD1～10) 新旧あわせて10基検出されている。

・SD1 3層上面で検出された溝跡で、ほとんどが調査区北側の攪乱によって破壊されているため規模は不明である。底面幅が広い。埋土は2層土である。方向は東西、深さ10cmほどが残存している。



南壁 (中央) 土層



西壁

PL. 1 2014-1 土層

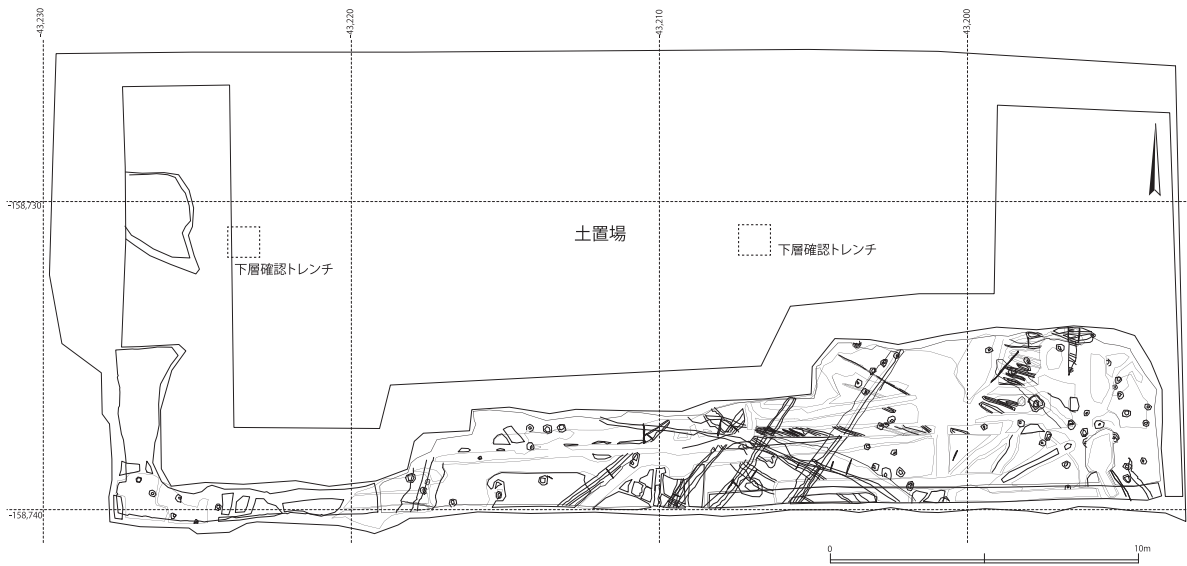


Fig. 4 調査区

・SD2 3c層上面で検出された遺構で、北側は攪乱部で破壊されている。北東-南西方向に延びる。最大幅52cm,最大深度45cmでわずかに底面を有するV字溝に近いU字溝である。埋土は二層に区分される。遺構が5・6層まで掘りこむため、埋土1は4層土と部分的に5層土のブロックが混じる。埋土2は砂層がクロスラミナを形成し、埋没前に底面にわずかに水が流れていたことが確認される。

・SD3 3c層上面で検出された遺構で、最大幅30cm,深さ36cmを測る。U字溝である。SD2に埋土1などが共通する。埋土2は砂層であり、クロスラミナを形成する。

・SD4 3c層上面で検出された遺構で、最大幅31cm,深さ20.5cmを測る。U字溝である。掘削の際、底面に断面図に反映されないほど薄い砂層があった。

・SD5 3c層上面で検出された遺構で、幅20～30cm,深さ30cmを測る。U字溝である。

SD2～5は、検出面や方向性が共通することから、ほぼ同時期に同じ目的で掘削されたと判断されるが、遺物の出土も少なく、性格は明らかではない。

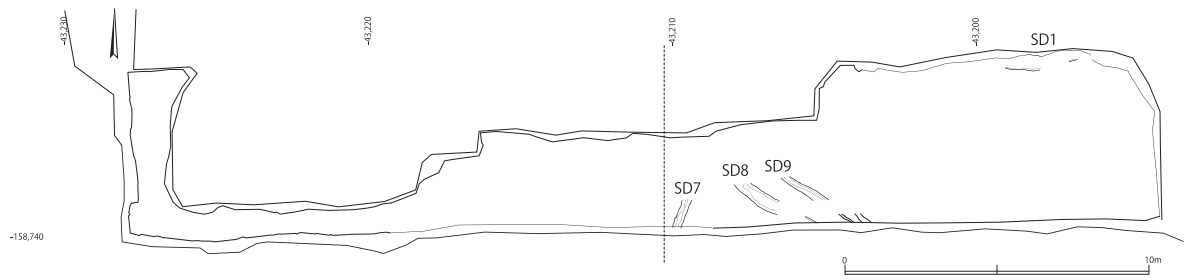
・SD6 4c層上面で検出された遺構である。検出面は異なるが、3層上面で検出されたSD1のほぼ真下に位置し、方向も東西で共通する。SD1の掘り残しの可能性も考えたが、検出面が異なり、埋土も4層土であるため、位置は偶然に重なったものであると判断した。北側を攪乱部にかなり破壊されているため、本来の規模は確認できない。検出面から深さ10cmほどで、底面が広い。

・SD7 3b層上面で検出された遺構である。SD4上に位置するが、検出面が異なるため、直接的な関係性はないとみられる。幅30cm,深さ6cm程度。

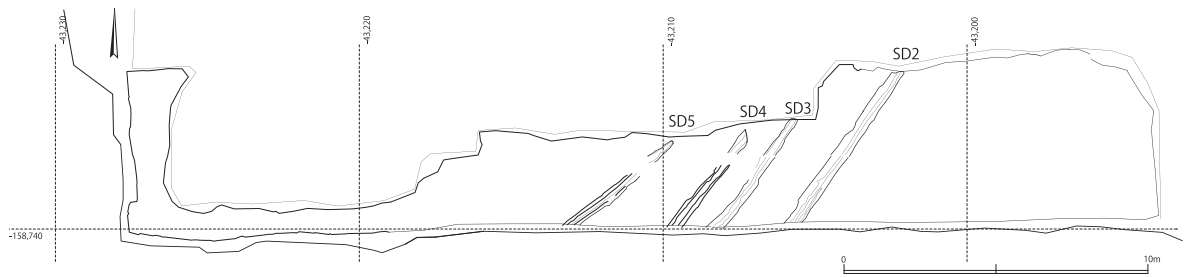
・SD8 3c層上面でSD2～5と同一検出面であるが、これらと違い、埋土が3b層土となっているため、これらより新しい遺構であると判断される。幅約50cm,深さ4cm程度。

・SD9 3c層上面でSD2～5と同一検出面であるが、これらと違い、埋土が3b層土となっているため、これらより新しい遺構であると判断される。幅約30cm,深さ7cm程度。

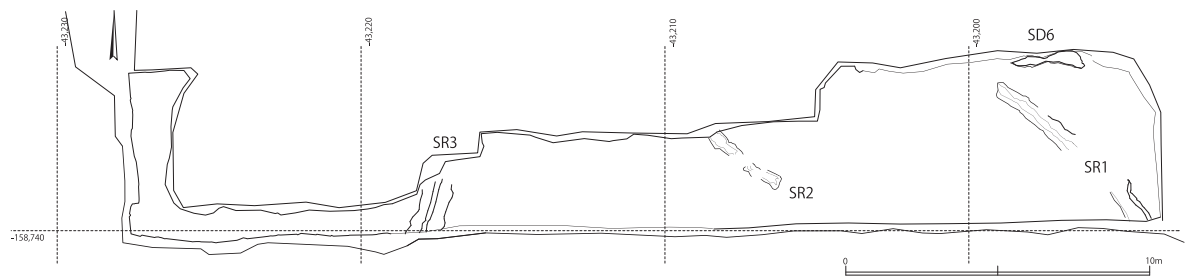
・SD10 5b層最下部で検出された溝である。北西-南東方向でやや弧状を描く。5層上面までで確認された溝跡とは明らかに方位が異なる。幅約70cm,深さ約10cmで遺物の出土量は少ないものの、わずかに得られた土器口縁部からは成川式の東原式に類似するものがあり、古墳時代前半期の溝であると考えられる。



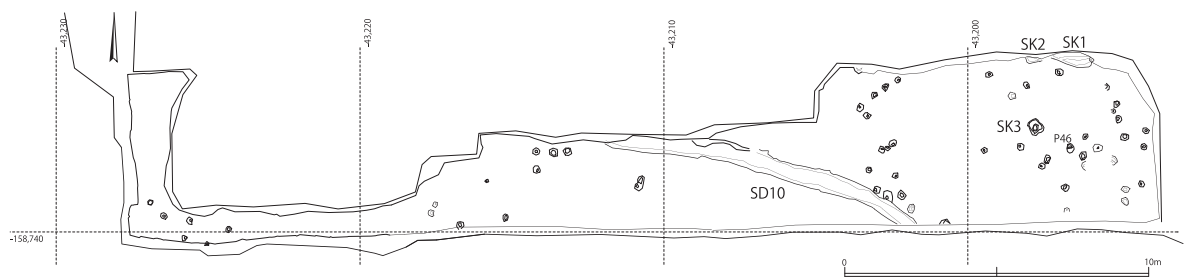
3a~3c層上面検出主要遺構



3c層上面検出主要遺構



4b•4c層上面検出主要遺構



6層上面検出主要遺構

Fig. 5 各層検出遺構

3) 自然流路

・SR1 遺構ではないが、ここで取り扱う。4c層掘削中に確認されたもので、ほぼ5層上面に近いレベルで上端ラインが検出された。下部は5層に達する。4c層中か5層上面のものであろう。方向は北西-南東である。幅55cm、深さ8cm程度で浅い。埋土は白色の粗砂・細砂で明らかに水流のあったことを示している。底面に凹凸が著しい。

・SR2 SR1と方向が合致している。4c層除去中に確認されたもので、5層上面で検出した。幅50cm、深さ7cm程度で浅い。埋土は浅黄色の粗砂層で、底面は凹凸が著しく、水流の痕跡を示している。

・SR3 SR1・2と方向も異なり、検出面も4b層上面と新しい。また、それらよりも深めの流路である。幅約110cm、深さ28cmを測る。

4) ピット群

5b層最下層・6層上面で検出されている。ピットが52基確認された。5a層土や5b層土の中間色のピットが柱穴になるものと考えられ、5b層土が入るものは、断面形状が先細りであったり、斜位に入っているものもあるため、樹根と判断した。P46は柱痕が検出された唯一の例で、柱径は約9cm、深さ22.6cmと小型のものであった。

5) 土坑

・SK1・2 6層上面で検出した遺構であり、SD1・SD6下位に位置する。不整形で性格も不明である。

・SK3 6層上面で検出した遺構。当初は約40cm四方の落ち込み状であったが、掘り下げ中に、中央部に柱穴があることが確認された。正式報告書ではピット群（柱穴）に分類すべきかもしれない。

6. 遺物

縄文時代～近代の遺物が得られている。

縄文時代の土器は縄文時代晩期の黒川式土器浅鉢の屈曲部破片が得られているが、遺物量が最も少ない。弥生時代の土器は、弥生中期～終末期の甕・壺の口縁部や多条突帯、底部などが得られているが、出土数は少ない。古墳時代の土器は、甕・壺・高坏等が得られている。高坏の脚部はハケメが著しく残り、屈曲部に細い工具による小さなスカシが確認される。遺物量が最も多いが破片がほとんどである。特徴的には古墳時代でも前半期に相当すると考えられる。古代の遺物は、土師器坏、内黒土師器、須恵器高台付き坏・蓋など8世紀後半～9世紀代の須恵器が一定量得られている。4層に集中する。中世の遺物は少なく、竜泉寮系青磁や南中国系白磁が数点得られたのみである。包含層では3b層で出土している。近世・近代の遺物は陶器・染付・瓦などが得られているが、薩摩焼や肥前染付などの小破片が多く、攪乱層～2層に多い。

7. まとめ

学習プラザ地点は、建物の跡地であるため、遺物包含層の残存状況が極めて悪い状況であり、残念ながら水町遺跡のような古代牛足痕や、福利厚生施設（エデュカ）における弥生時代～古墳時代の人の足跡などを再確認することはできなかった。しかしながら、破壊された建物以外の地点では古墳時代～近世の遺構が極めて良好に残っており、鹿大構内遺跡では珍しい古代の遺物も一定量出土する。近隣の調査を行う際には、注意を要する地点である。今後も周辺地域の調査が実施される場合、慎重に対応がなされるべきであろう。

註

1) 坪根伸也 1987『水町遺跡』鹿児島大学教育学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室

2) 中村直子・大西智和 1995『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』IX・X 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2014-2 郡元団地 F- 6 区保健管理センター増築その他工事に伴う発掘調査

1. 調査に至る経緯

鹿児島大学では、郡元団地内において保健管理センターの増築改修工事が予定された。工事地点は、鹿児島大学構内遺跡郡元団地北東部に位置し、過去の調査では縄文時代中期～近世にいたる複数の包含層が確認されている。特に近隣の調査地点では、北側に弥生時代の住居跡と近世水田跡（農学部1号館中庭地点D・E-5区）、東側に近世の土取り穴（大学院連合農学研究科校舎建設地点F-4区）、南側の植物園から学習交流プラザにかけては旧河川跡が検出されている。本地点では土層の残存状況が不明であったため、本調査に先立ち2014年1月前半にボーリングにより7mの深度までの土層確認を行ったが、表土から1.5mの深さまで高圧電線敷設により攪乱を受けている箇所であったため、土層の様子が判明しなかった。そのため急遽、2014年3月25～28日に試掘調査を行い、再度土層確認を行うこととなった。その結果、弥生～古墳時代の包含層が近世の水田造成によって削平されているという農学部1号館中庭地点の状況に類似している（鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書第5集（2010））ことが判明し、本地点においても発掘調査を行うこととなった。

調査は、表土は重機による機械掘削を行い、以下、弥生・古墳～近世の包含層の調査を行い、地山まで到達した時点で一ヶ所深堀トレンチを設定して、最後に下層確認を行うこととした。

2. 調査体制・期間・規模

所在地 鹿児島市郡元1丁目21-24

調査起因 保健管理センター増築その他工事

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 特任助教 寒川朋枝

調査員 国際文化財株式会社 長林 大

作業員 岩切ひとみ・太田政子・鹿倉征治・加治屋幸雄・上塩入久代・川越まゆみ・川畠 勲・川俣友秀・桐木平雅代・芝田恵子・下田まき子・下田平博文・杉山高・高山重光・本田史比古・松崎大嗣・前屋敷茂樹・松下郁美・水迫久夫・安永政一・山下キヨミ・山下昌孝・行野良子

発掘期間 平成26年5月22日～平成26年7月2日

調査面積 約136㎡

3. 調査の経過

平成26年5月22～26日／重機による表土剥ぎ

平成26年5月27～30日／人力による攪乱掘り、2・3a層上面検出

平成26年6月2～10日／3層掘削（5月30日～6月2日：3a層掘削、6月3・4日：3b層掘削、6月5・6日：3c層掘削、6月9日：3d層掘削、6月10日：3e層掘削）

平成26年6月11～16日／4層掘削（6月11・12日：4a層掘削、6月13・16日：4b層掘削、6月16日：4c層掘削）

平成26年6月17～25日／5層掘削（6月17～23日：5a層掘削、6月24日：5b層掘削、6月25日：5c・d層掘削）

平成26年6月26～30日／6層掘削

平成26年7月1日／7層上面遺構完掘

平成26年7月2日／下層確認トレンチ掘り

調査は平成 26 年 5 月 22 日より、機械掘削による表土剥ぎを行った。機械掘削後、配管や柵の撤去ののち、人力により攪乱掘削を行い、6 月 2 日より包含層の掘削を行った。調査区は便宜的に 5 m 幅で区分し、南西隅（機械点設置位置）より西→東方向に 1～4 区、南→北を a・b 区とし、遺物取上等の際には a-1 区、b-1 区、…と表記することとした。

包含層は、一層ごとに掘り下げて全景の撮影、遺構検出作業を行い、遺構が検出された場合は掘削・写真撮影のほか、足跡など調査区全面に広がる場合は写真測量も併せて行った。遺構検出面は 9 面であった。

4. 基本層位

本調査区の基本層位は、2～5 層は近代・近世の水田層に該当し、6 層は近隣の調査より弥生～古墳時代包含層と想定される。近世の水田造成により 6 層は削平され、部分的に北側に残存する状況である。そして、7 層上面まで掘り下げた後、調査区内一ヶ所で深堀トレンチを設定して下層確認を行った（PL. 2 下）。以下に基本層所を示す。

1 層：表土・攪乱

2 層：灰黄褐色 10YR5/2・にぶい黄褐色 5/3 細砂シルト層（パミス含む、近代の攪乱か）

3a 層：にぶい黄橙色 10YR7/2 シルト層

3b 層：灰黄褐色 10YR6/2 細砂シルト層

3c 層：灰白色 10YR8/2 細砂シルト層 白色パミス混（A・B－1～3 区では、上面で畦間跡 1～13 南西方向に検出 A・B－4 区では、足跡？検出）

3d 層：明黄褐色 10YR6/6 細砂層 鉄分混 パミス少量含む（上面にて畦間跡 1～12 南西方向に検出）

3e 層：灰黄褐色 10YR5/2 粘質シルト層 堆積は薄く数センチであり、部分的に認められる

3f 層：灰白色 10YR8/1 細砂層 ブロック状に 4a 層を含む 調査区内で部分的に認められる

4a 層：灰黄褐色 10YR5/2 砂質シルト層 マンガン浸透（上面にて足跡、鋤？痕検出）

4a' 層：調査区南西隅の水田 3 の 4a 上層のみに認められる 4a 層と白細砂 10YR7/1 混ざる

4a 層下部分に、ごく薄く白砂が堆積している地点（調査区中央部・南壁）が認められる

4b 層：灰黄褐色 10YR5/2 粘質シルト層 マンガン浸透（畦上面検出）

4b' 層：4b 層に白細砂が混じる 主に調査区の東側、4b 層の下に堆積している

5a 層：褐灰色 10YR5/1 シルト層 マンガン混（足・手跡、鋤痕検出 5a 下層に遺物若干多く出土）

5b 層：褐灰色 10YR5/1 シルト粗砂混層 白色パミスが混ざる

5c 層：灰黄褐色 10YR5/2 粗砂に明黄褐色 10YR6/6 粗砂（6 層か）混ざり硬くしまる 白色パミス混

5d 層：にぶい黄橙色 10YR6/4 粗砂層 白色パミス混 硬くしまる

5c 層と 5d 層はほぼ同じレベルに検出され、5c 層は調査区西側、5d 層は東側に認められる

（遺構は溝跡 SD1～11、土坑 SK1～3）

6 層：黒褐色 10YR3/2 粗砂層 パミス混 6 層上面で土坑 SK4～17、SD12、ピット P2～7 検出

【7 層以下は深堀トレンチにて確認、遺物出土なし】

7a 層：明黄褐色 2.5YR6/8 粗砂層

7b 層：にぶい黄橙 10YR7/4 粗砂層（7 層軽石混）

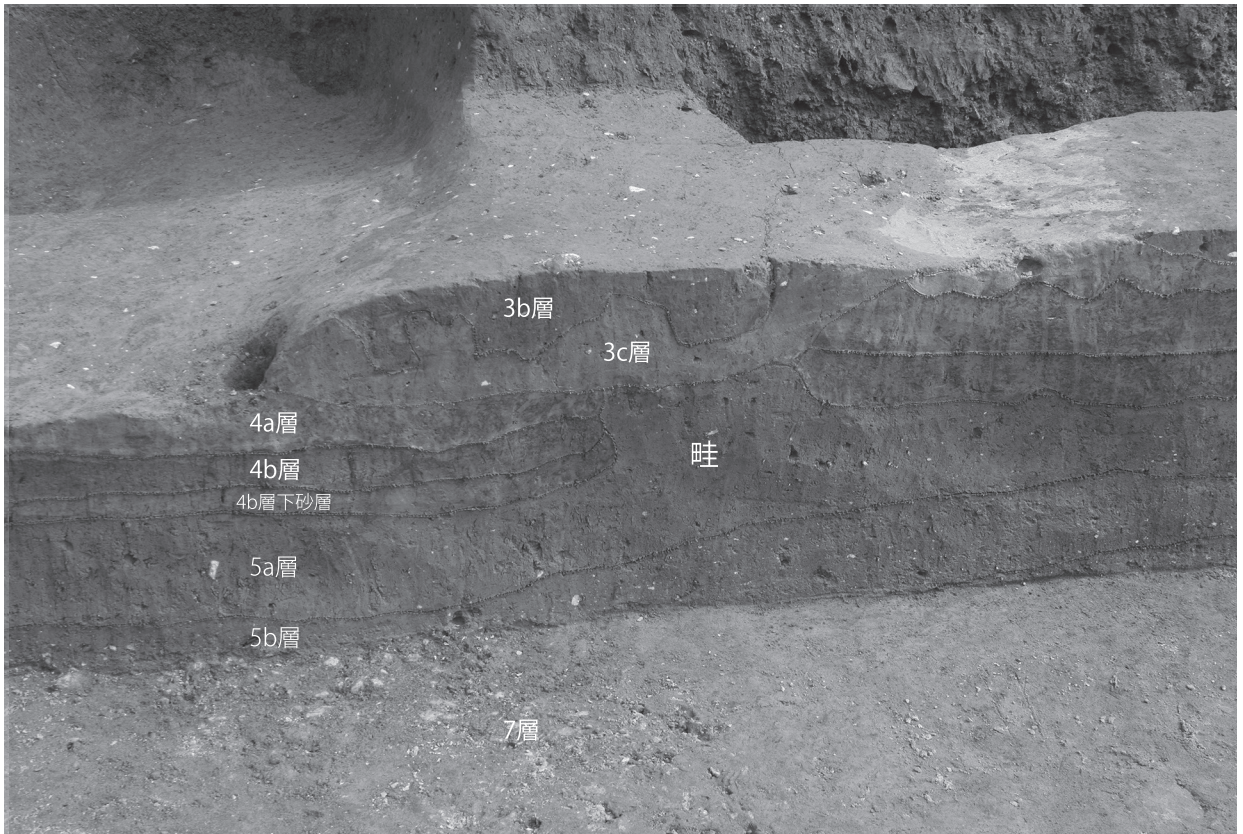
7c 層：明黄褐 10YR6/6 粗砂層（粗砂多い）

7d 層：にぶい黄橙 10YR7/4 粗砂層

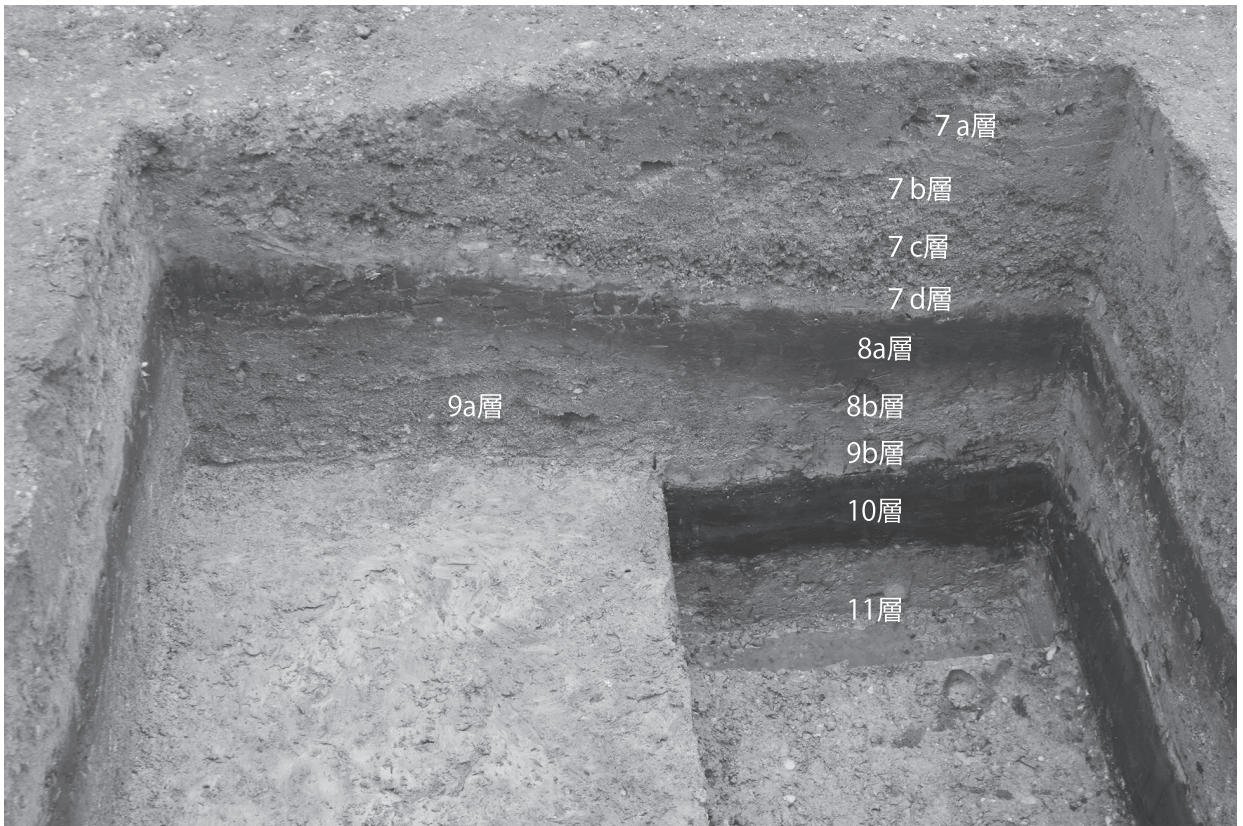
8a 層：黒褐 10YR3/1 シルト層 粘質土 鉄分含む

8b 層：褐灰 10YR5/1 シルト層 粘質土 鉄分含む

9a 層：明褐灰 7.5YR7/2 細砂・粗砂層

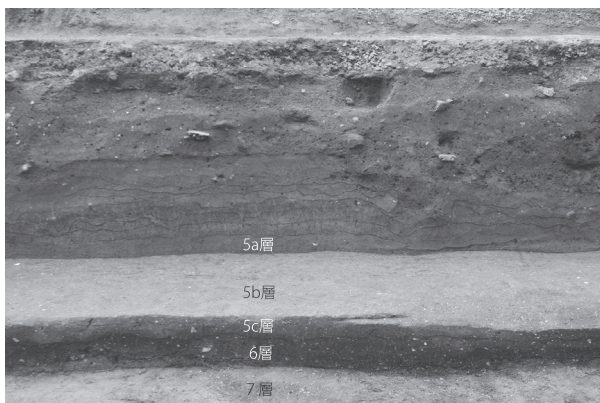


南壁東側

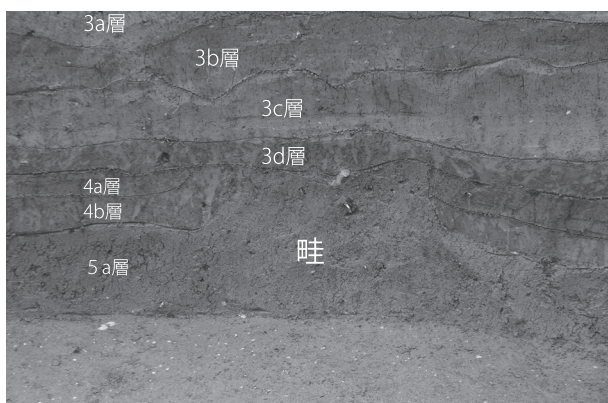


下層確認深掘トレンチ 南壁

PL. 2 2014-2 土層



北壁



東壁北側



3c層上面遺構検出状況



4a層上面遺構検出状況



4b層上面大蛙検出状況

PL. 3 2014-2 土層, 3c・4a・4b層上面遺構検出状況

9b層：黄橙 10YR8/6 シルト層 粘質土

10層：黒色層 10YR2/1 シルト層粘質土 有機物含む泥炭層（8層も含む）

11層：灰白 10YR8/1 シルト層 軽石混

5. 遺構

主な遺構は、近世の水田層と6層弥生～古墳時代に該当すると思われる土坑等である。各層毎に述べる。

2層は調査区内に部分的に認められるほか、調査区中央部の東西方向の凹みに溜まった状態で認められたが、遺物の出土もみられず、近代の攪乱層の可能性もある。

3層は、3c・3d上面にて畦間跡や鋤痕と思われる浅い凹みや足跡などを検出した。畦間もしくは鋤跡の方向は各層とも南西方向であった。3d・3f層は細砂層であり、堆積は薄く平面では部分的に認められない箇所もある。この砂層は、大学構内遺跡の周辺調査で認められる河川氾濫砂層とも類似しており、本地点の水田も数度にわたり近隣の河川の氾濫の影響を受けていた可能性がある。

4a層上面は浅い凹凸となっており、そこに3d～3f層がたまっており、足跡や耕作痕の可能性もある。また、調査区西側a区にて、南北報告に帯状の窪みが認められ、鋤痕の可能性が考えられる。窪み内には、3f白砂層と3e層がたまる。4b層上面では、畦が検出され水田5面が判明した（Fig. 6）。調査区中央に最も広い面積で検出された水田1が最も高く、隣接する水田2と水田3は一段水田面が低くなっている。また、AB－4区では多数の小ピットが検出され、そのうち7個のみ測量を行った。B-1区には浅い不明土坑SK1も検出された。

5a層上面では、鋤痕かと思われる筋状の浅い窪みが検出されているが、調査区西側a・b-1・2区では南北方向、調査区東側では東西方向に認められ、埋土も異なる。また、足跡や手跡なども検出された。畦の土は5a層と思われ、土盛りをした痕跡は堆積状況からは判明せず、5a層を床土として入れる際に畦も作り出された可能性がある。また、畦の上面は平らになっており、後世の造成により畦上部が削られている可能性が高い。

5c層は調査区西側に分布しており（Fig. 7上）、5c層の下には5d層は認められない。5c・d上面層では、溝状遺構と土坑、鋤痕が検出された。SD2は土坑2.3を巡る形で検出されているが、残存部分が少なく用途は不明である。

5c・5d層を掘削すると、6層は調査区北側にまだらに残存していることが判明した（Fig. 7下）。北側6層残存部分は高く、調査区南東側に向かって低く傾斜する部分には5層を掘削すると下に6層は存在せず7層が認められ、後世の造成により特に南側は6層が削られていることが分かった。6層上面では、SK4～17の14箇所の窪みが検出された。しかし遺物等の出土はなく、形状から住居跡と判別するには到らなかった。だが、窪みの深さはどれも浅く、遺構の上面がほぼ削られているために判別できなかった可能性はある。

6. 遺物

遺物は、中コンテナ（60×40×15cm）1箱の出土量であった。

2～4・6層の遺物出土はほとんどみられなかったが、5層（特に5a下層～5b上層）では出土がみられ、近世とおもわれる青磁・陶磁器類やキセル、古代該当かと思われる須恵器片、弥生時代土器底部片など、少数であるが様々な時期の遺物が出土している。5層はグライ化した床土であると考えられ、整地の際に他所より持ち込まれた土壌である可能性が高く、その際攪拌等を受けるなどしたために様々な時期の遺物が包含されていると考えられる。本調査区で検出されている畦も5a層により作り出されている可能性が高い。また、3層より1点スナイドル小銃弾が出土している。

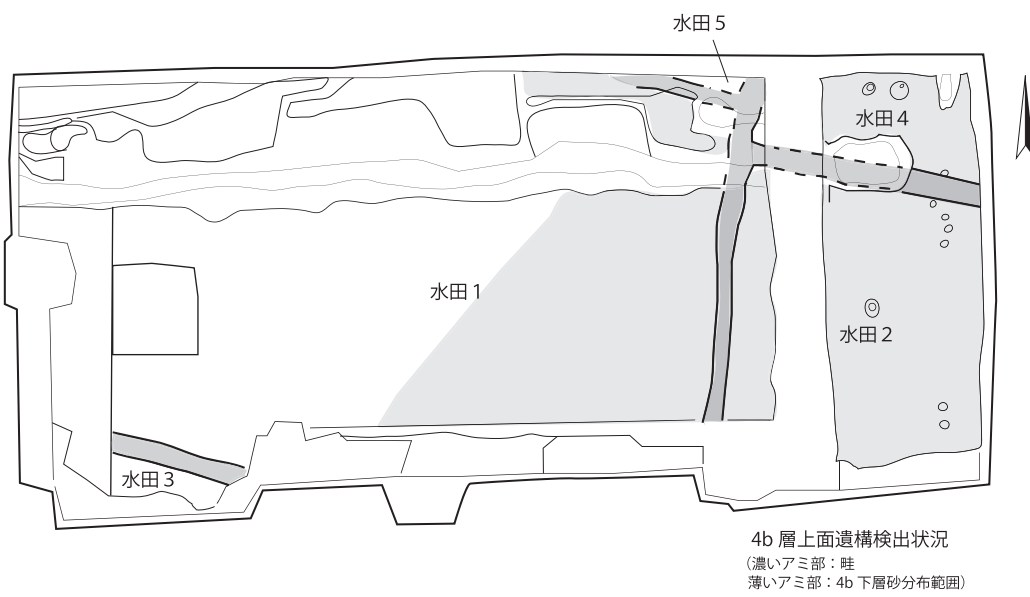
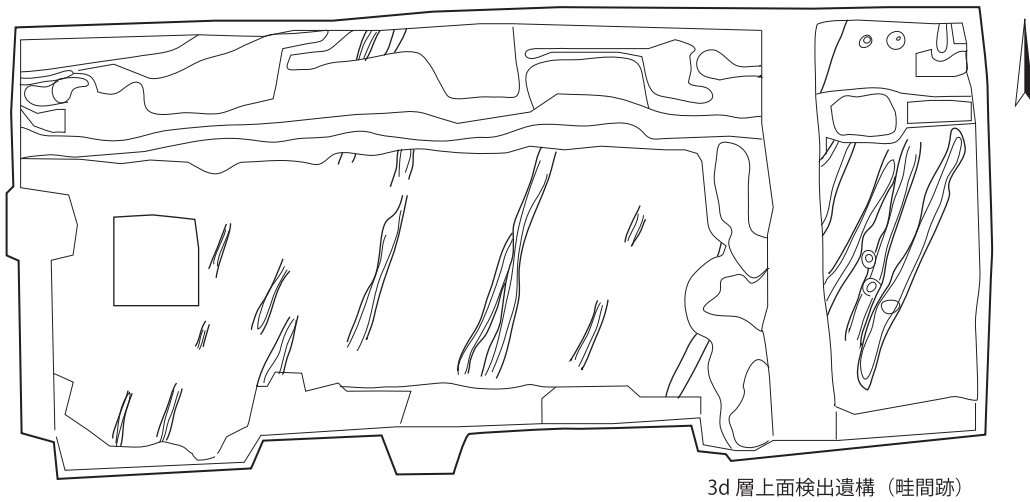
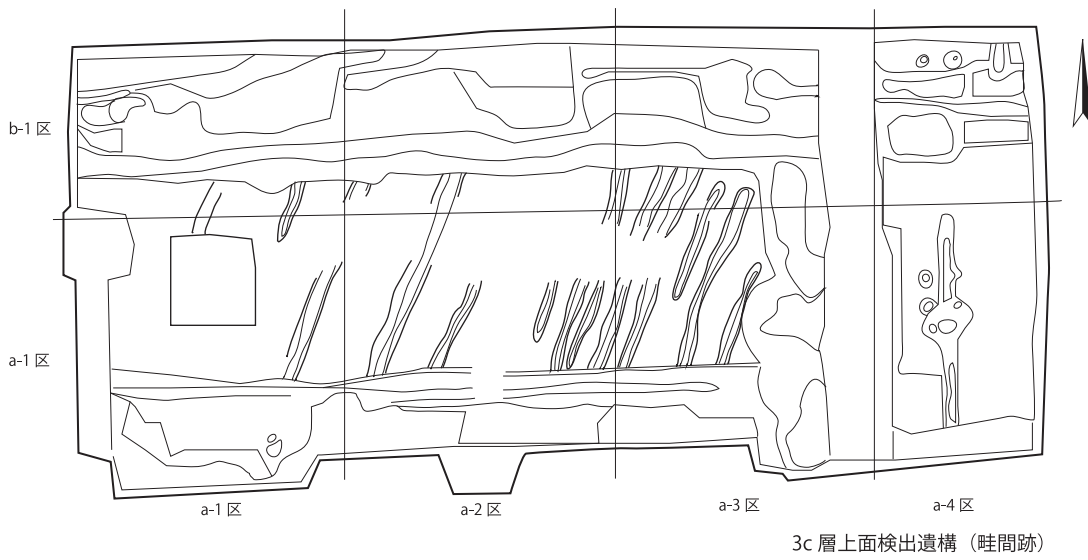
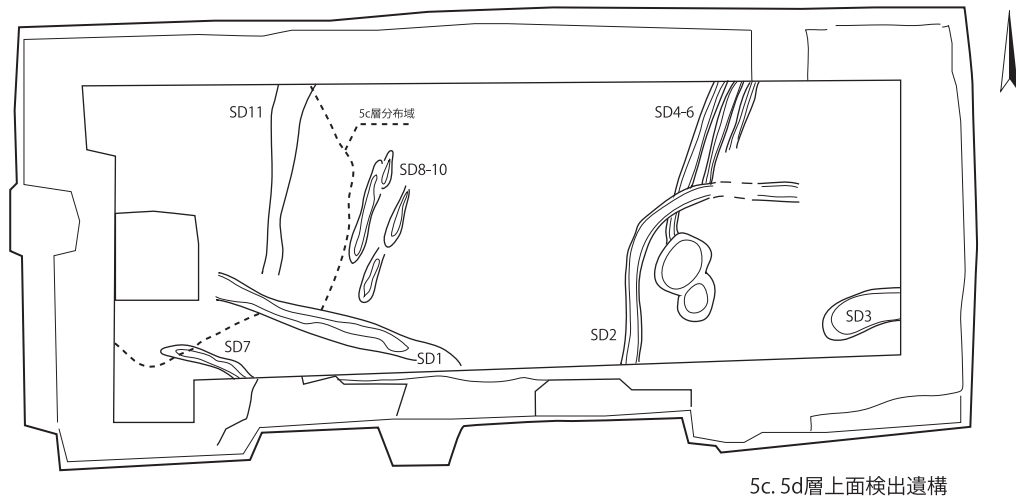
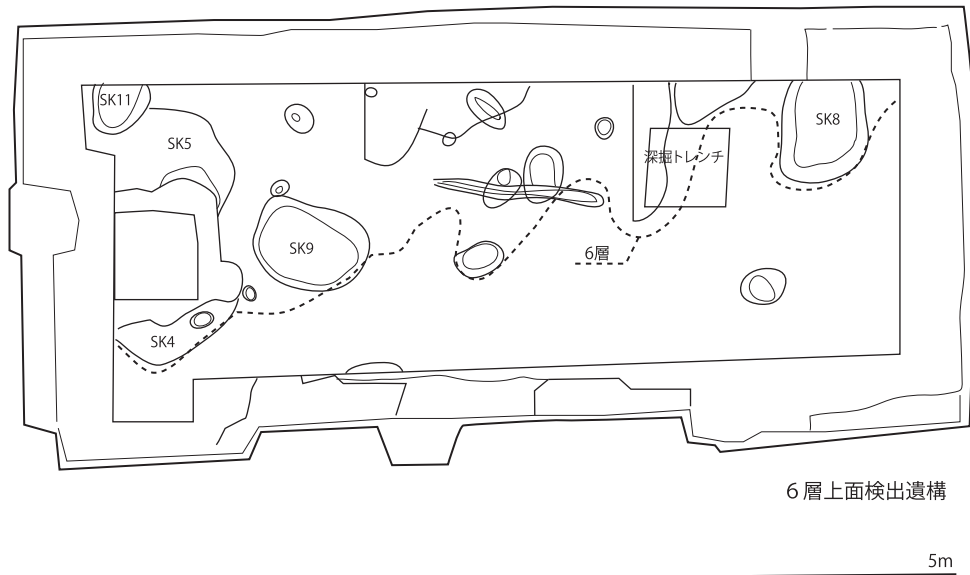


Fig. 6 3c・3d・4b層 遺構検出状況



5c, 5d層上面検出遺構

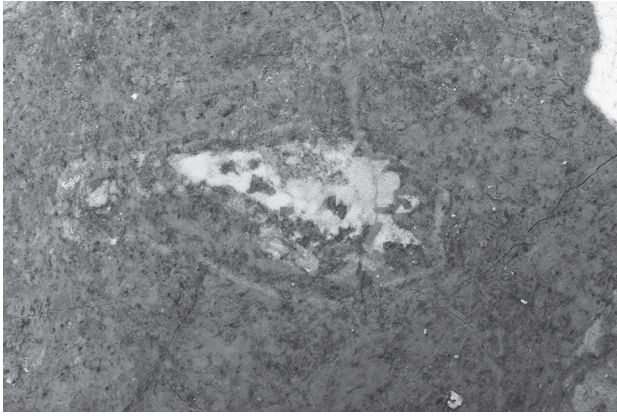


6層上面検出遺構

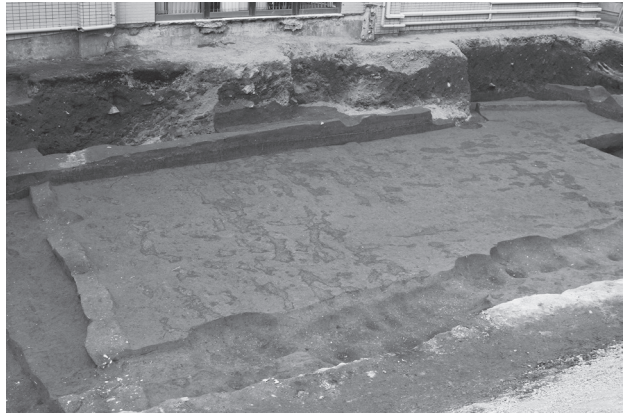
Fig. 7 5c5d・6層 遺構検出状況

7.まとめ

本調査の成果としては、過去に周辺部にて行われた調査と同様、近世に農地改変のため削平ののち土が入れられて水田として数度にわたり使用されていたことが確認された。水田面と考えられる面は、3c層から5a上面まで、少なくとも5枚確認できた。また、弥生～古墳時代の包含層に該当する層位は、削平のためあまり残存していなかったが、遺構の性格は不明瞭ながらも土坑などの遺構が検出された。本地点の調査により、弥生時代の活動の痕跡や、近世における土地改革や利用の様相を示す事例が追加されたといえる。



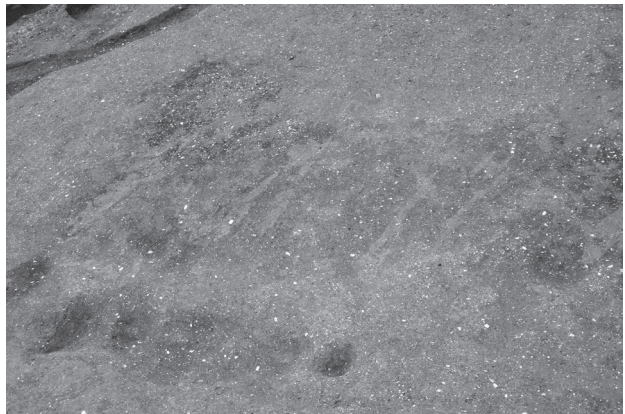
4b 層上面足跡? 検出



5a 層上面足跡・鋤痕検出状況北より



5a 層上面手跡検出



5c.5d 層上面鋤痕検出状況



5c.5d 層上面遺構完掘状況



6 層上面遺構検出状況

PL. 4 2014-2 4～6層遺構等検出・完掘状況

Ⅲ 立会調査

平成 26 (2014) 年度は、郡元団地内で 10 件、桜ヶ丘団地内で 3 件、鴨池宿舎で 1 件、事業数としては合計 13 件の立会調査が計画され、8 件を実施した。2013-H については平成 26 年 4 月の実施となったため、2014-E として本年報にて報告する。国立大学法人化後、調査は鹿児島市教育委員会が担当することになっており、埋蔵文化財調査センターがオブザーバーとして立会う。ガス漏れや漏水などの緊急時や双方の日程の都合のつかない場合は、埋蔵文化財調査センター単独で調査を行っている。以下にその概要を記す。

2014-A 桜ヶ丘団地 H-5・6 区 (医歯学総合研究科仮設研究実験棟新営工事)

調査地点 桜ヶ丘団地 H-5・6 区

調査期間 2014 年 9 月 18 日

調査担当 鹿児島市教育委員会 井口俊二

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

桜ヶ丘キャンパス内において、仮設研究実験棟建設に付随する外部工事 (電気・機械設備工事, 給排水施設設置工事) を実施することになった。

a・b 地点ともに 120cm 深度の掘削を行った。a 地点では地表下 100cm まで攪乱を受けており、その下からは薩摩火山灰層が認められた。b 地点では地表下約 120cm 攪乱層であった。

2014-B 郡元団地 O・P-6・7 区 (教育学部学習プラザ新営その他機械・電気設備工事)

調査地点 郡元団地 O・P-6・7 区

調査期間 2014 年 6 月 5 日, 8 月 29 日, 9 月 17 日, 12 月 5 日

調査担当 鹿児島市教育委員会 井口俊二・有川孝行

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 新里貴之・寒川朋枝

郡元キャンパスにおいて、新たに建設される教育学部学習プラザに付随し、機械・電気設備工事が行われることになった。本地点の南側は、水田跡・溝状遺構を検出した水町遺跡¹⁾であり、また学習プラザ建設に伴う調査 (2014-2) により、60～70cm 厚の攪乱層の下に近世以降の包含層が確認され、中近世～古代にかけての水田層や溝などの遺構が確認されている。よって、本掘削地点も立会調査を行うこととなった。a～c 地点 (機械設備工事) は 2014 年 6 月 5 日, d 地点 (電気設備工事) は 8 月 29 日, e～k 地点は 9 月 17 日, l 地点 (汚水配管工事) は 12 月 5 日に調査を行った。a・c・f・h・l 地点で包含層が残存していた。また、年度をまたぎ 2015 年 4 月 3 日, 5 月 11 日にも合計 7 ヶ所の立会調査が行われているが、次年度の年報 31 にて報告する。

a 地点では地表下約 50cm, c 地点では地表下約 40cm で包含層が検出された。b 地点は 100cm 掘削したが攪乱を受けていた。d 地点は地表下 70cm まで掘り下げたが、攪乱層であった。

e 地点は、約 70cm 掘り下げ攪乱層であったが、下層に包含層と思われる黒色土が認められた。f 地点は地表下約 55cm まで攪乱層であったが、それより下位層は包含層が残存していた。中世の包含層と思われる 3 層は、部分的に鉄分が強く浸透しており水田層の可能性が高い。g・i・j 地点は地表下約 130cm, k 地点は地表下約 900cm 攪乱を受けていた。h 地点は地表下 160cm まで攪乱を受けていたが、下層に黒色シルト層が認められた。

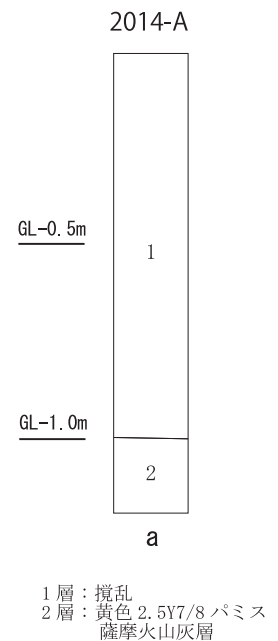


Fig. 8 2014-A 土層柱状図

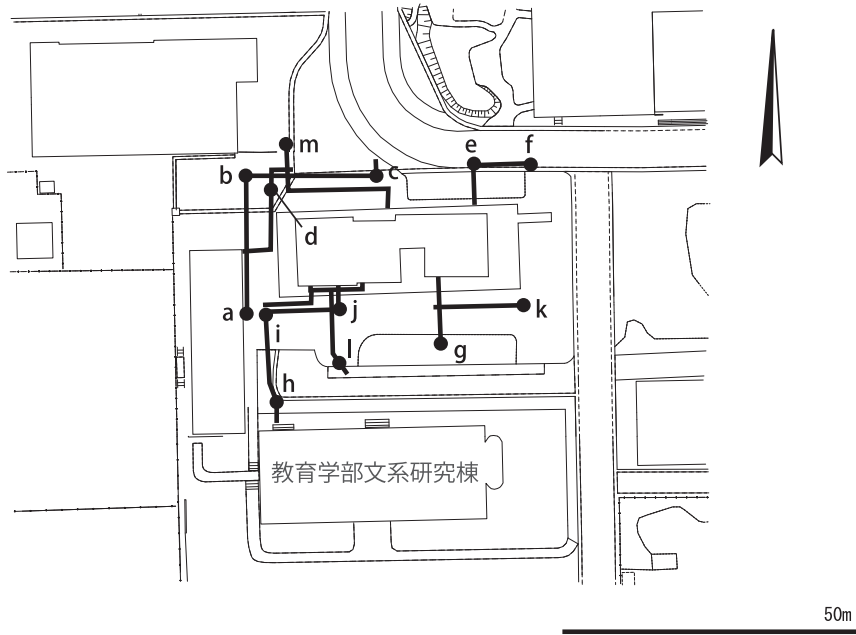


Fig. 9 2014-B 掘削地点

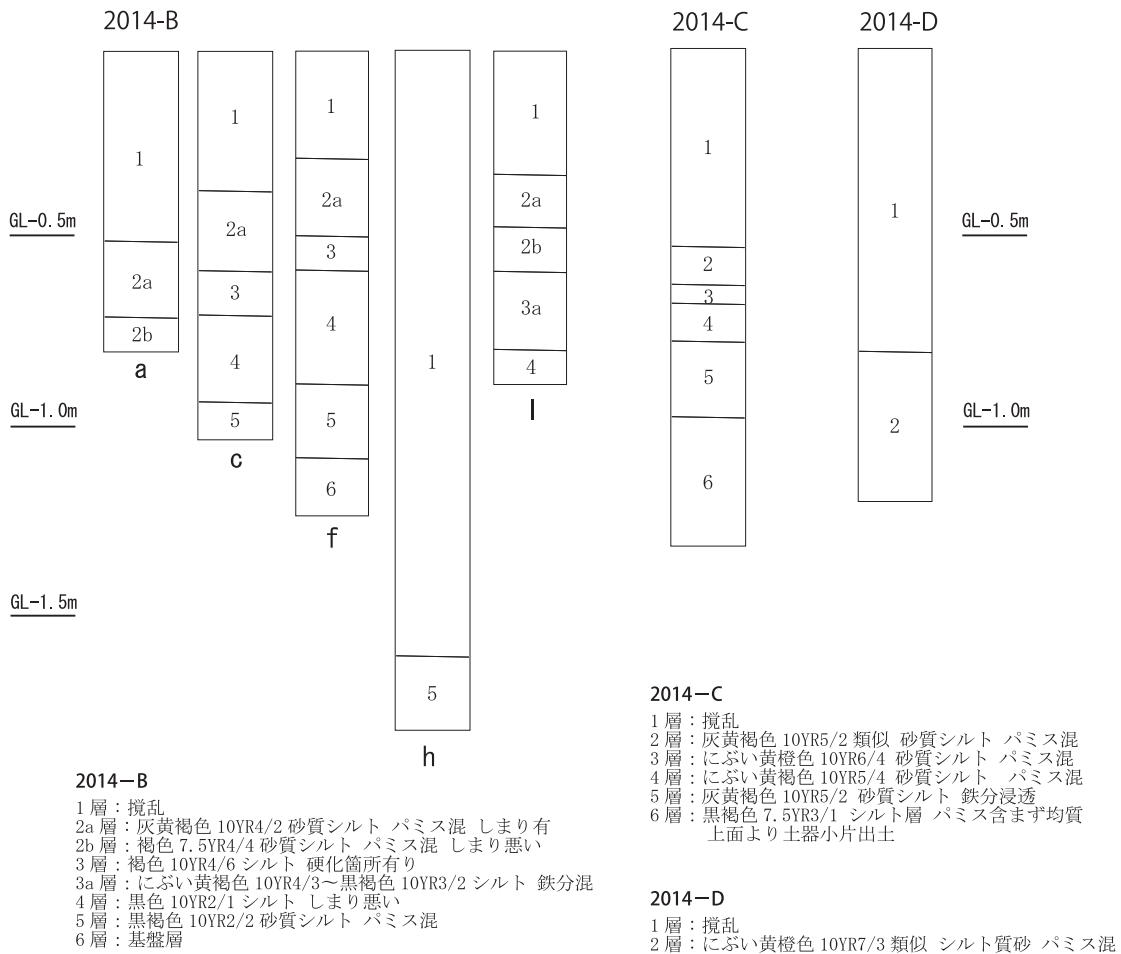


Fig. 10 2014-B・C・D 土層柱状図



2014-A a地点 北より



2014-A a地点 西壁



2014-A b地点 西壁



2014-B a地点 掘削状況



2014-B a地点 北壁



2014-B b地点 掘削状況



2014-B c地点 掘削状況



2014-B c地点 東壁



2014-B d地点掘削状況 北より



2014-B e地点掘削状況



2014-B f地点掘削状況



2014-B f地点土層



2014-B f地点北壁



2014-B h地点土層

PL. 6 2014-B d～h地点



2014-B h地点 掘削状況



2014-B k地点 掘削状況



2014-B l地点 掘削状況



2014-B l地点 東壁



2014-C 東側電柱掘削状況



2014-C 西側電柱掘削状況



2014-C 西側電柱完掘



2014-C 西側電柱掘削下層部分

PL. 7 2014-B h～l地点, 2014-C

1地点は、地表下約 35cm より包含層が残存しており、地表下約 90cm 黒色土上面付近で土器小片が少量出土した。

註

1) 坪根伸也 1987『水町遺跡』鹿児島大学教育学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室

2014-C 郡元団地 J-4・5 区（共通教育棟改修関連電気工事）

調査地点 郡元団地 J-4・5 区

調査期間 2014 年 6 月 6 日

調査担当 鹿児島市教育委員会 真鍋雄一郎

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 中村直子

郡元キャンパスでは、共通教育棟周辺整備に伴い、電柱設置工事を行うことになった。本掘削地点は、共通教育棟南側の 2ヶ所である。周辺部は縄文時代から近世までの包含層が認められる地点であり、特に古墳時代の集落・水田跡などの遺構が密集して検出されていることから、立会調査を行うこととなった。

a 地点では、地表下約 130cm の掘削を行った。6 層の黒色土上面より土器小片がまばらに出土しており、総合研究棟建設に伴う発掘調査（99-1）の際に確認された土器溜まりの周辺部と思われる。また、地表下 130cm 付近では炭化粒が認められ、住居内埋土の可能性も考えられる。東側 b 地点では、地表下 140cm まで掘削を行ったが、攪乱を受けている状況であった。

2014-D 郡元団地 C-4 区（産業動物実習棟調査区脇桜樹木移植工事）

調査地点 郡元団地 C-4 区

調査期間 2014 年 6 月 13 日

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 中村直子

郡元キャンパスでは、産業動物実習棟建設に伴い、工事車両侵入の妨げになる樹木の移植を行う必要が生じた。工事行程の関係上緊急性が生じたため、埋蔵文化財調査センターのみで立会調査を行うこととなった。移植元である a 地点は、南北 4m、東西 3m の範囲を地表下 120cm 掘削した。地表下 80cm まで攪乱層であり、以下の土層は 2013-1 南区 2 層と同じ土層であった。移植先となる b 地点は、東西南北 2m 四方の掘削を行った。地表下 100cm までの掘削を行ったが攪乱層であった。

2014-E 郡元団地 I-9 区（電気電子工学科棟改修その他電気・機械設備工事）

調査地点 郡元団地 I-9 区

調査期間 2014 年 6 月 25 日

調査担当 鹿児島市教育委員会 井口俊二

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 中村直子

郡元キャンパス内において、電気電子工学科棟改修工事が計画され、それに伴い電気設備・機械設備の配管敷設による掘削工事を行うこととなった。本立会調査は、平成 25 年度に行う予定であった立会調査（2013-H）であるが、平成 26 年度の実施となったためここで報告する（平成 26 年 4 月に実施した地点については、年報 29 にて報告済みである）。本掘削地点は、地表下 130cm の深さまで攪乱層であり、遺物の出土も認められなかった。

2014-F 郡元団地 F-6 区（保健管理センター増築その他機械設備工事における土木工事）

調査地点 郡元団地 F-6 区

調査期間 2014 年 8 月 7 日、9 月 26 日、11 月 7 日



2014-D a地点 移植掘削作業開始 南西から



2014-D a地点 移植掘削作業 東から



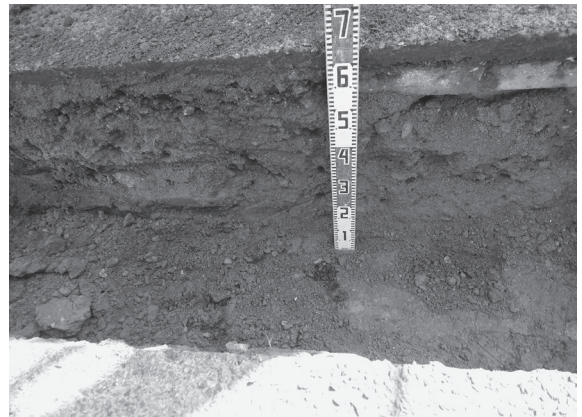
2014-D a地点 移植掘削作業 東から



2014-D b地点 移植先掘削



2014-F a地点掘削状況



2014-F c地点土層



2014-F d地点掘削



2014-F d地点土層

調査担当 鹿児島市教育委員会 井口俊二

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

保健管理センター増築工事において、既設の埋設給水・排水は移管の盛り変え工事等を行う必要が生じた。

a・b地点は8月7日、c地点は9月26日、d地点は11月7日に立会調査を行った。

a地点は地表下110cm、b地点は地表下50cmの掘削を行った。既設配管設置によりすでに攪乱されており、新設の配管は既掘配管の横に設置することになった。c地点は地表下70cmまで掘削をおこなったが、既設管により掘削されていた。d地点は地表下80cmまで掘削を行った。地表下80cmまでは攪乱を受けていたが、近世の水田層が底面に認められた。地表下80cm以下は包含層が残存していると思われる。

2014-G 桜ヶ丘団地H・I-5・6区（医歯学総合研究科仮設研究実験棟新営電気設備工事）

調査地点 桜ヶ丘団地H・I-5・6区

調査期間 2014年9月1日、2015年3月13日

調査担当 鹿児島市教育委員会 井口俊二

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

桜ヶ丘キャンパス内において、医歯学総合研究科仮設研究実験棟建設に伴い、電気設備工事が計画された。

a～c地点は9月1日に、d地点は2015年3月13日に工事を行った。

a地点は、柵設置のため地表下120cmまで掘削を行った。地表下100cmまで攪乱層であり、その下よりアカホヤ火山灰層が認められ、遺物は出土しなかったが包含層が残存していた。b・c地点は地表下80cmまでの掘削を行ったが、攪乱層であった。d地点は地表下150cmまでの掘削を行い、地表下110cmでアカホヤ火山灰層が認められ、その下層に遺物包含層が認められた。本地点周辺では、2014-Aの結果も踏まえると地表下100cm以下の掘削においては注意が必要である。

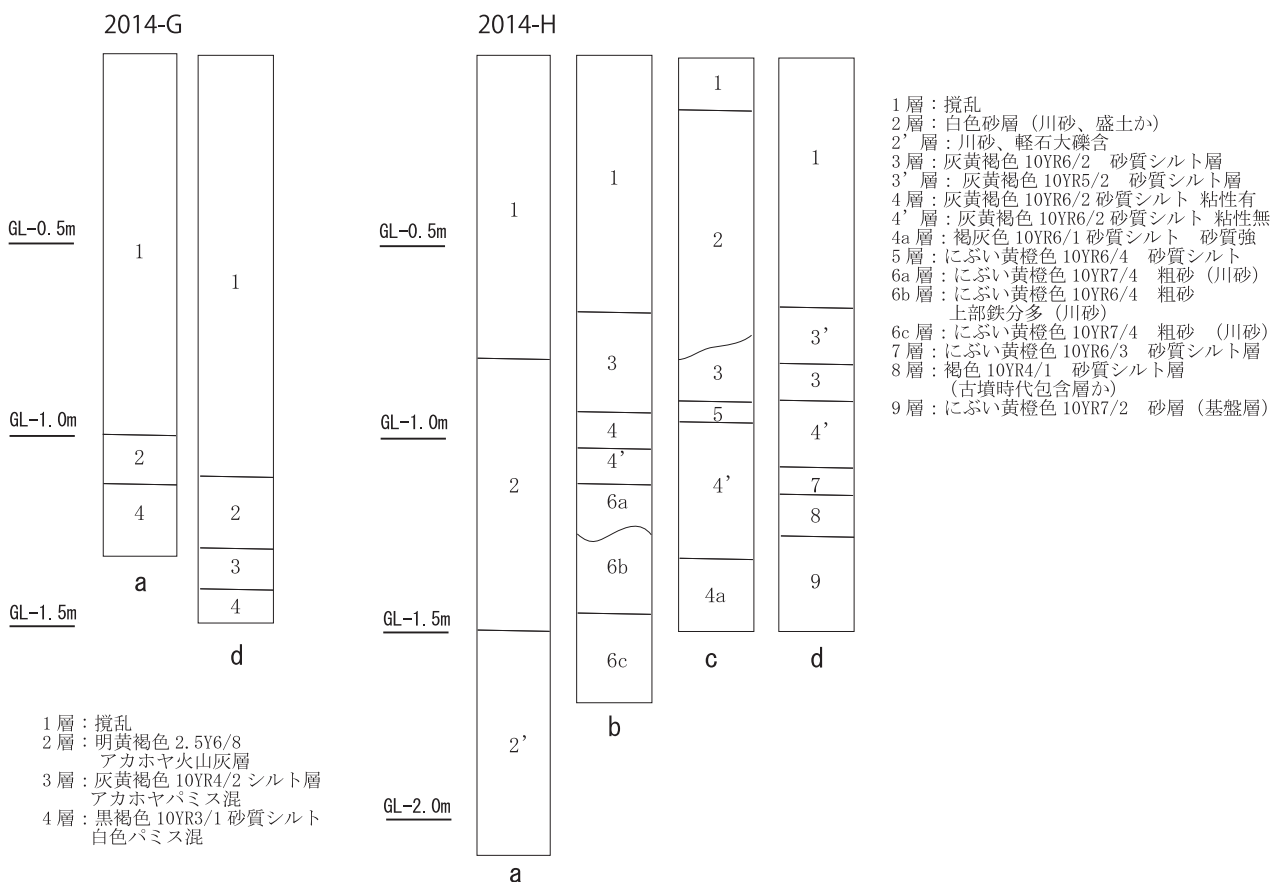


Fig. 11 2014-G・H 土層柱状図



2014-G a地点 掘削地点



2014-G a地点 土層



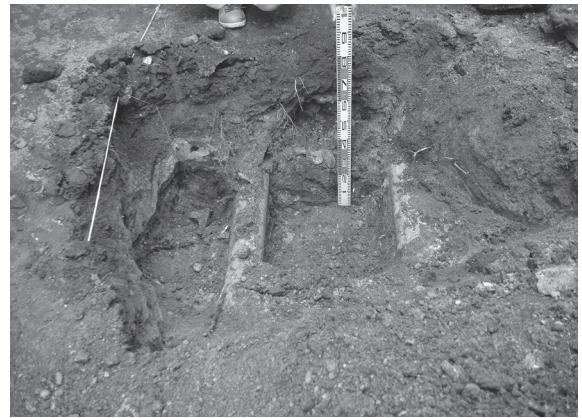
2014-G a地点 土層



2014-G c地点 掘削地点周辺



2014-G c地点 掘削状況



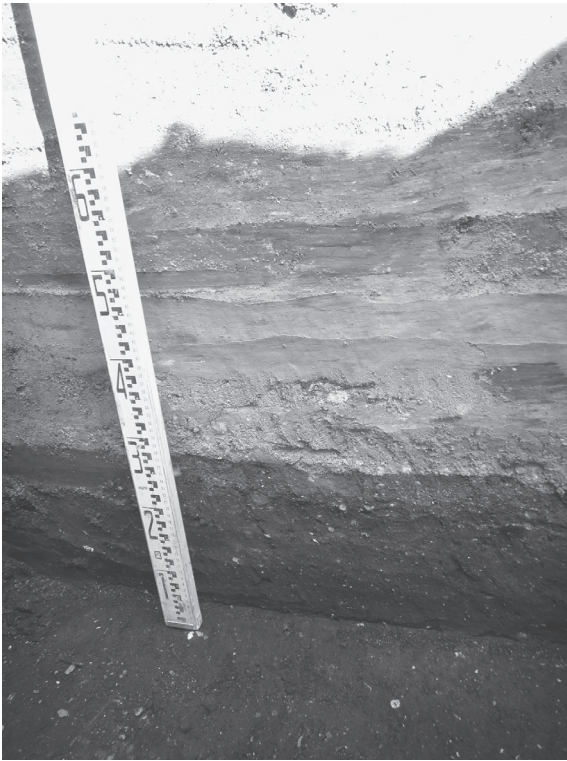
2014-G c地点 掘削状況



2014-G d地点 掘削地点



2014-G d地点土層



2014-G d地点 土層



2014-H a地点 掘削地点



2014-H a地点 土層



2014-H b地点掘削状況



2014-H b地点



2014-H b地点 土層

PL. 10 2014-G 2014-H



2014-H b地点 土層



2014-H b地点 完掘



2014-H c地点 掘削状況



2014-H c地点 掘削地点周辺



2014-H c地点 掘削状況



2014-H d地点 掘削地点



2014-H d地点土層

2014-H 郡元団地 B～D-3～5区（実習棟（産業動物飼育施設）新営機械設備・電気設備工事）

調査地点 郡元団地 B～D-3～5区

調査期間 2014年11月4日，2015年3月23日

調査担当 鹿児島市教育委員会 真鍋雄一郎，井口俊二

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝・新里貴之

郡元キャンパスにて，産業動物実習棟建設に伴い，電気設備・機械設備工事が行われることになった。電気・機械設備の掘削ルートは類似する地点であり，2013-1 産業動物飼育施設建設に伴う発掘調査の結果から，一部河川跡もしくは近世水田跡に該当する可能性があった。電気設備工事で予定されたハンドホール部分（a～d 地点）が最も掘削深度が深いため，この部分で土層の確認を行った。その結果，a～d 地点とも，地表下 80cm は攪乱層もしくは近世の河川跡であり，ルート部分の掘削については問題ないと判明した。

b～d 地点については，近世の水田層と思われる層が確認された。d 地点は，近世水田層の下位より古墳時代包含層と思われる土層が確認された。ただし，色調も薄く遺物の出土もみられなかった。

2014-I 郡元団地 S-5・6区（付属小学校体育館等天井改修その他工事）

調査地点 郡元団地 K・L-5区

調査期間 2015年3月23日

調査担当 鹿児島市教育委員会 井口俊二

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

郡元キャンパス付属小学校内の側溝改修工事が計画された。本掘削工事は，既設配管の既掘部を掘削することになり，念のため地表下 60cm までを掘削して攪乱を受けていることを確認し，立会調査を終了した。

2014-J 郡元団地 B-7・8区（農学部附属演習林実験実習地電気水道取付工事）

調査地点 郡元団地 B-7・8区

調査期間 2014年9月11日

調査担当 鹿児島市教育委員会 真鍋雄一郎

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

郡元キャンパス北部の農学部演習林実験実習地周辺において，電気水道工事を行うこととなった。a 地点は地上 80cm まで掘削を行ったが攪乱層であった。また b 地点演習林内においては，地表下 1m まで掘削を行った。地表下 95cm までは川砂混の攪乱層であった。それより下層で鉄分を含むややかたくしまった層が確認された。近世水田層の可能性はある。

2014-L 桜ヶ丘団地 I-6区（医学部基礎講義実習棟改修機械設備工事）

調査地点 桜ヶ丘団地 I-6区

調査期間 2014年11月6日

調査担当 鹿児島市教育委員会 井口俊二

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

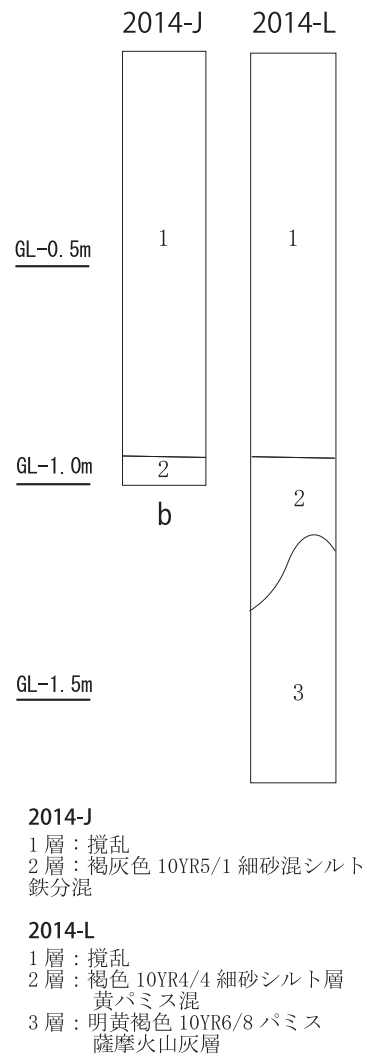


Fig. 12 2014-J・L 土層



2014-I a 地点掘削状況



2014-I a 地点北壁土層



2014-J a 地点掘削状況



2014-J a 地点土層



2014-J b 地点掘削状況



2014-J b 地点土層



2014-L 掘削状況



2014-L 土層

桜ヶ丘団地では、医学部基礎講義実習棟改修に伴い、機械設備工事が計画された。既設枡を撤去し、検水枡を新設する地点の立会調査を行った。地表下 170cm の掘削を行ったところ、東側半分は既に攪乱を受けていた。西側壁は地表下 95cm まで攪乱を受けていたが、それより下層は包含層が残存しており、地表下 110cm 以下では薩摩火山灰層が確認できた。校舎周辺の掘削も計画されていたため、校舎際 1m 範囲内に寄せて既掘部分で工事を行うこととした。

2014-M 鹿児島大学鴨池宿舎改修電気設備工事

調査地点 鹿児島大学鴨池宿舎

調査期間 2015 年 1 月 27 日

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 新里貴之

鴨池宿舎は、遺物包蔵地としての登録はされていないため、調査は本来不要であったが、状況を把握するために埋蔵文化財調査センターのみで土層の確認調査を行った。a 地点では 110cm、b 地点では 90cm の深さで掘削を行ったが遺物包含層は確認されなかった。本地点では 1m 前後の掘削深度では客土の可能性が高い。

2014-N 郡元団地 F-10 区（農学部実験実習地（附属農場圃場）工事）

調査地点 郡元団地 F-10 区

調査期間 2015 年 2 月 26 日

調査担当 鹿児島市教育委員会 井口俊二

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 寒川朋枝

郡元キャンパス内附属農場圃場に給水施設を設置する工事が予定された。地表下 40cm 掘削を行ったが、攪乱層であった。

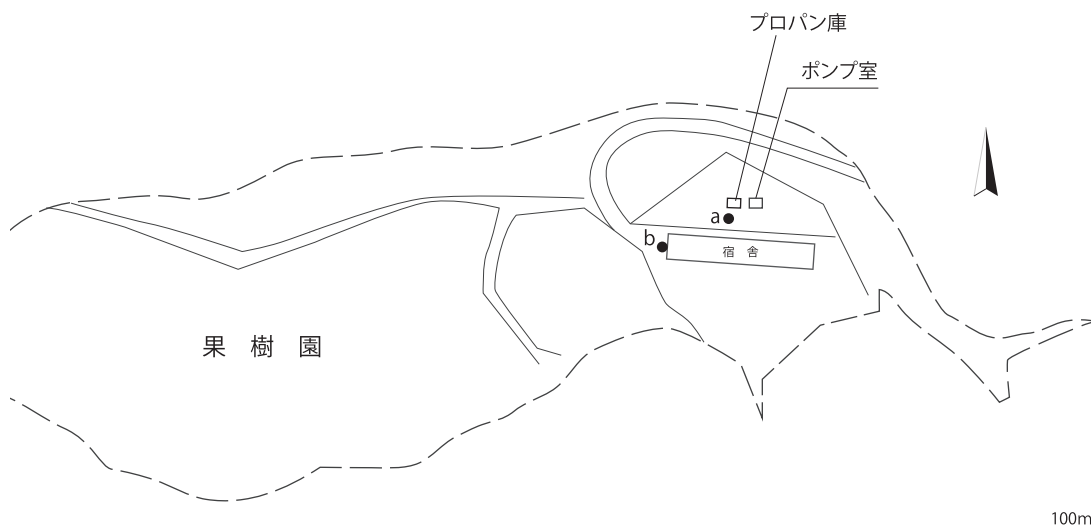


Fig. 13 2014-M 掘削地点



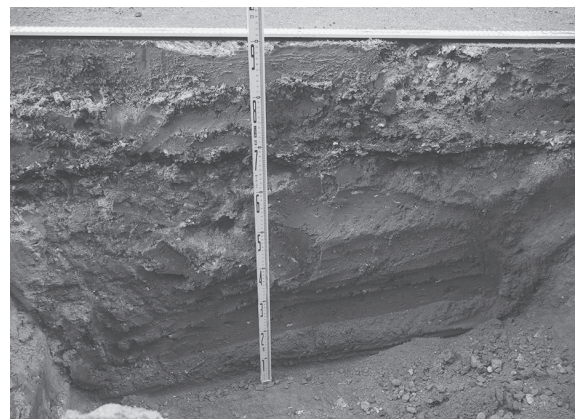
2014-M a 地点掘削地点



2014-M a 地点 土層



2014-M b 地点掘削地点



2014-M b 地点 土層

PL. 13 2014-M 調査

IV 遺物整理

平成 27 (2015) 年度の報告書第 11 集掲載予定の郡元団地 J-10・11 区工学部校舎建設に伴う発掘調査 (1997-1) と、同年刊行の年報 29 掲載の平成 25 (2013) 年度試掘・立会調査遺物の注記・分類・実測・トレースを行った。そして、平成 26 年度に引き続き、昭和 51 (1976) 年度理学部 2 号館増築予定地 (釘田第 8 地点) 発掘調査 (1976-1) 出土土器の注記・分類、同地点出土木製品の実測・トレース・写真撮影を行った。釘田第 8 地点の出土木製品については、平成 27 年 3 月報告書刊行予定である。

また、保健管理センター前試掘調査 (2013-4) と理工系総合研究棟 II 建設に伴う発掘調査 (2001-2) については、注記・分類と一部実測を行った。

V 刊行物

郡元団地 J-10・11 区工学部校舎建設に伴う発掘調査 (1997-1) を掲載した「鹿児島大学埋蔵文化財調査センター第 11 集 鹿児島大学構内遺跡 (郡元団地)」の発掘調査報告書を刊行した。また、平成 25 (2013) 年度の発掘調査概要報告 (2013-2・3)、試掘調査概要報告 (2013-4)、立会調査報告 (2013-A~J)、その他事業について掲載した「鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報 29」を刊行した。

VI 遺物保管

大学構内出土遺物は保存管理・活用も考慮すると一括収納が望ましいが、スペース確保の問題もあり現在は各部局にて収蔵している。これらの遺物については、例年遺物収蔵状況の確認を行っており、平成26年度は学内16ヶ所の遺物保管場所について、湿度・気温等一定環境の収蔵状況が保たれていることを確認した。

保管場所の移動作業としては、釘田第8地点の木製品実測・写真撮影作業が終了したため、理工系総合研究棟地下へ移動した。理工系総合研究棟地下は、湿気が多いため本来遺物収蔵には不向きであるが、木製品は水に浸けた状態で保存するため、また実測・写真撮影といった報告書刊行に向けての作業がほぼ終了したということもあり、木製品に限っては本収蔵場所にて保管し、年に一度の水替え作業も地下にて行うこととなった。また、そのほか報告書の刊行された発掘調査の遺物についても収納場所へ移動した。附属中学校発掘調査（2009-1・2011-1：鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書第9集）は教育学部へ、脇田亀ヶ原遺跡（2012-3：鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書第10集）は桜ヶ丘へ、釘田遺跡第一地点（1975-1：鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書第6集）は文系総合研究棟へ、各地点出土の遺物を移動収納した。その他、産業動物飼育実習棟建設に伴う発掘調査（2013-1）にて出土した遺物についても、文系総合研究棟から共同獣医学部へ移動収納した。

VII 普及啓発活動その他

鹿児島大学構内遺跡出土資料に関して、志布志市教育委員会職員より遺物見学依頼が1件あった。

また、2014年8月2日、『祭祀遺跡の考古学』と題して埋蔵文化財調査センター主催の公開講座を行った。講座内容は、「南九州における縄文時代の精神文化（寒川）」、「南九州古墳時代集落遺跡にみる祭祀遺物（中村）」、「島嶼地域における洞穴奥部のグスク時代（中世）祭祀遺跡（新里）」の3テーマであり、40名近くの参加者があった。

12月には、鹿児島県教育委員会文化財課の東和幸氏・鹿児島市教育委員会井口俊二氏にご協力いただき、大学施設関係職員や大学関連事業者を対象とした埋蔵文化財講習会を開催した。東氏・井口氏により大学構内における埋蔵文化財調査に関する諸手続きや、鹿児島県における埋蔵文化財発掘調査基準・出土品取扱基準等について解説いただき、鹿児島大学埋蔵文化財調査センター新里貴之により大学構内遺跡の概要の説明があった。最後に質疑応答も行われ、大学構内における埋蔵文化財発掘調査のあり方についての理解を得られた。

2015年2月には、埋蔵文化財調査センターのHPのリニューアルを行った。また埋蔵文化財調査センター組織を紹介するリーフレットも作成した（PL14）。



鹿児島大学
埋蔵文化財調査センター
Research Center for Archaeology
Kagoshima University



鹿児島大学構内の遺跡について

4つの遺跡群
(鹿児島大学構内遺跡・脇田亀ヶ原遺跡・唐湊学生寮・入来牧場)



鹿児島大学では、4つのキャンパスおよび附属施設で遺跡が確認されています。鹿児島大学構内遺跡(都元キャンパス)、脇田亀ヶ原遺跡(桜ヶ丘キャンパス)、唐湊学生寮、農学部附属入来牧場です。

各敷地内の遺跡は、時代と性格がそれぞれ異なります。



鹿児島大学構内遺跡(都元キャンパス)

鹿児島大学構内遺跡(都元キャンパス)は平野部に位置し、主要な遺跡は、弥生時代中期および古墳時代後期の集落跡です。



1. 古墳時代後期の集落跡
2. 弥生時代後期の井欄(河川跡内)
3. 河川跡出土の土器類

唐湊学生寮

唐湊学生寮は台地上に位置しています。縄文時代後期の土器、石器が出土しています。



脇田亀ヶ原遺跡(桜ヶ丘キャンパス)

脇田亀ヶ原遺跡(桜ヶ丘キャンパス)は台地上に位置し、主要な遺跡として、旧石器時代～縄文時代初めごろの落し穴、縄文時代早期および弥生時代前期～中期の集落跡などがあります。



1. 後期旧石器時代の落し穴
2. 縄文時代早期の土器
3. 弥生時代前期白土器内の土器類

農学部附属入来牧場

入来牧場は山間部に位置しています。縄文時代晩期ごろの土器とともに、多数の石鏡が採集されています。



埋蔵文化財調査センターの主な業務

鹿児島大学では、文化財保護法を遵守し、大学に存在する埋蔵文化財の保護対策を講ずることが、学術・文化機関としての大学の課せられた責務であるとして、昭和60(1985)年に大学独自の調査機関として、埋蔵文化財調査室を設置しました。

平成24(2012)年に埋蔵文化財調査センターと改称し、施設整備計画に伴う試掘調査、発掘調査を中心とする調査・研究を継続して実施しています。

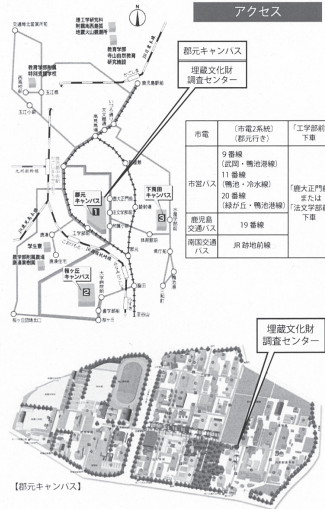
その調査・分析・研究成果は、昭和61(1986)年から現在まで、『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター(室)調査報告書』ならびに『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター(室)年報』として、毎年1冊ずつ印刷物として発行しています(一部はホームページ上でダウンロード可能です:無料)。

また、発掘調査期間中は遺跡説明会の開催、小学校から大学生までの体験発掘などの受け入れ、公開講座の開催、遺物や写真資料の貸し出しも随時実施しています。

出土した主要な遺物は、「総合研究博物館常設展示室」に展示されています。そのほかにも、図書館増築工事の際に出土した遺物の一部を、中央図書館「鹿児島大学歴史展示室」に、農学部敷地内工事によって出土した遺物を「農学部100周年記念展示室」にそれぞれ展示しています。

ぜひ足をお運びください。

アクセス



国立大学法人 鹿児島大学
埋蔵文化財調査センター

〒890-8580 鹿児島市都元1-21-24
TEL 099-285-7270 FAX 099-285-7271
URL <https://www.kagoshima-u.ac.jp/maibun/>

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人鹿児島大学常置委員会規則（平成16年4月1日制定）第3条第3項に基づき、国立大学法人鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という）に関し、必要な事項を定める。

(組織)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長（以下「センター長」という）。
- (2) 各学部、大学院理工学研究科及び大学院医歯学総合研究科の教授、准教授又は講師のうちから選出された者 各1名

2 前項第2号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第3条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 調査実施計画に関すること。
- (2) 埋蔵文化財調査センターの予算に関すること。
- (3) その他埋蔵文化財の業務に関すること。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、第2条第1項第1号をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 委員長は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。

(事務)

第7条 委員会に関する事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

2 この規則の施行前に委員となった助教授は、その任期の満了の日まで引き続き委員とする。

附 則

1 この規則は、平成19年11月28日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則

1 この規則は、平成20年1月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成21年4月1日から施行する。

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター規則

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島大学学則（平成16年4月1日制定）第7条第2項の規定に基づき、鹿児島大学埋蔵文化財調査センター（以下「センター」という）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、鹿児島大学（以下「本学」という）の埋蔵文化財の調査に関する業務を行い、本学内に存在する埋蔵文化財の保護を講ずることを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の業務を行う。

- (1) 調査実施計画の立案
- (2) 発掘調査、分布調査および確認調査
- (3) 調査報告書の作成
- (4) その他必要な事項

(職員)

第4条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長（以下、「センター長」という）
- (2) 主任
- (3) その他必要な職員

第5条 センター長は、本学の考古学に関連する教員のうちから国立大学法人鹿児島大学学内共同研究施設等人事委員会（以下「委員会」という）の意見を参考にして、学長が選考する。

- 2 センター長は、センターの業務を掌理する。
- 3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 センター長に欠員を生じた場合の補欠のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(主任等)

第6条 主任は、調査室の職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を委員会が推薦し、学長が選考する。

- 2 主任は、センター長の命を受けてセンターの業務を処理する。
- 3 職員は、センターの業務に従事する。

(事務)

第7条 センターに関する事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附則1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

- 2 この規則施行後、最初のセンター長は学長が指名した者をこの規則により選考したものとみなす。

附 則

- 1 この規則は、平成22年1月29日から施行する。

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会（平成 26 年 4 月 1 日現在）

委員長 本田道輝（埋蔵文化財調査センター センター長）

委員 渡辺芳郎（法文学部）

黒光貴（教育学部）

近藤正男（理学部・理工学研究科）

平田好洋（工学部・理工学研究科）

田松裕一（医歯学部総合研究科）

福留清博（医学部）

嶺崎良人（歯学部）

木方十根（工学部）

花城 勲（農学部）

松元光春（共同獣医学部）

鳥居亨司（水産学部）

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター（平成 26 年 4 月 1 日現在）

センター長（併）法文学部教授 本田道輝

主任 准教授 中村直子

助教 新里貴之

特任助教 寒川朋枝

技術補佐員 篠原美智子

瀧田綾子

東 友子

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報 30

2016年3月発行

編集・発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター

鹿児島市郡元一丁目 21-24

TEL 099-285-7270

印刷 斯文堂株式会社

鹿児島南栄 2-12-6

TEL 099-268-8211

Kagoshima University

Research Center for Archaeology

Report Vol.30

CONTENTS

Chapter

1	Report of archaeological research in fiscal year 2014	1
2	Report of excavation at Area O•P- 6 in Korimoto Campus	5
	Report of excavation at Area F- 6 in Korimoto Campus	11
3	Report of rescue surveys 2014	19
4 ~ 7	Report of other jobs	33

Published by
Kagoshima University Research Center for Archaeology
2016